

平成 28 年度

全国学力・学習状況調査結果報告

川西市教育委員会

目 次

1. 調査の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 実施日
- (3) 調査内容
- (4) 市内の参加状況
- (5) 分析の際の基準の考え方

2. 平成 28 年度教科に関する調査結果

【小学校国語】【中学校国語】【小学校算数】【中学校数学】

- ① 教科全体の平均正答率
- ② 度数分布図
- ③ 領域・事項別の平均正答率

3. 平成 25 年度小学校 6 年生と平成 28 年度中学校 3 年生（同一児童生徒）の調査結果の追跡

- ① 教科の平均正答率の比較による追跡
- ② 質問紙調査結果の比較による追跡

4. 平成 28 年度生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

5. 今後の取り組みについて

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- この取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- なお、本調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面である。(平成 28 年度実施要項より)

(2) 実施日

平成 28 年 4 月 19 日 (火)

(3) 調査内容

- 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年の児童生徒対象
- 教科に関する調査 (国語、算数・数学)
 - ①主として「知識」に関する問題 (A)
 - ②主として「活用」に関する問題 (B)
- 生活習慣や学習習慣等に関する質問紙調査
 - ①児童生徒に対する調査
 - ②学校に対する調査

(4) 市内の参加状況

- 小学校実施人数 (16 校)

国語 A	1, 400 名	国語 B	1, 400 名
算数 A	1, 400 名	算数 B	1, 400 名
児童質問紙	1, 403 名		
- 中学校実施人数 (7 校)

国語 A	1, 397 名	国語 B	1, 397 名
数学 A	1, 397 名	数学 B	1, 399 名
生徒質問紙	1, 399 名		

(5) 調査結果の取扱いについて

文部科学省では、平成 28 年度の結果公表にあたって、数値データを上昇させることが主たる関心事とならないよう留意するため、都道府県別の平均正答率について、小数点第 1 位以下の数値を公表することで数値データによる単純な比較が行われ、序列化や過度な競争を助長する 1 つの要因として考えられることから、平均正答率は整数値で公表することとなった。また、調査結果の状況については、「ほとんどの都道府県が平均正答率の±5% の範囲内にあり、大きな差は見られない」と表現している。そのため、本市においても、文部科学省の趣旨をふまえ、公表資料を作成することとする。

2. 平成 28 年度教科に関する調査結果

記号について

◇…理解できている点

◆…課題のある点

A…国語A、算数/数学A

B…国語B、算数/数学B

【】内の記号は、問題番号

調査結果 小学校国語

①教科全体の正答の状況

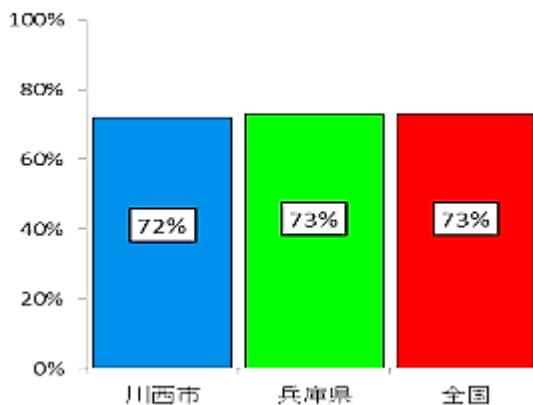
国語A

	平均正答数	平均正答率
川西市	10.8問/15	72%
兵庫県	10.9問/15	73%
全国	10.9問/15	73%

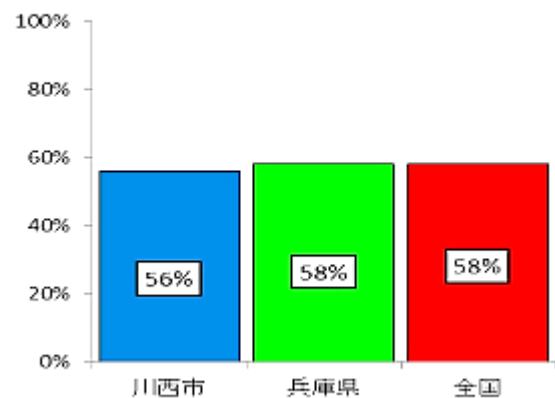
国語B

	平均正答数	平均正答率
川西市	5.6問/10	56%
兵庫県	5.8問/10	58%
全国	5.8問/10	58%

【小学校】国語A



【小学校】国語B

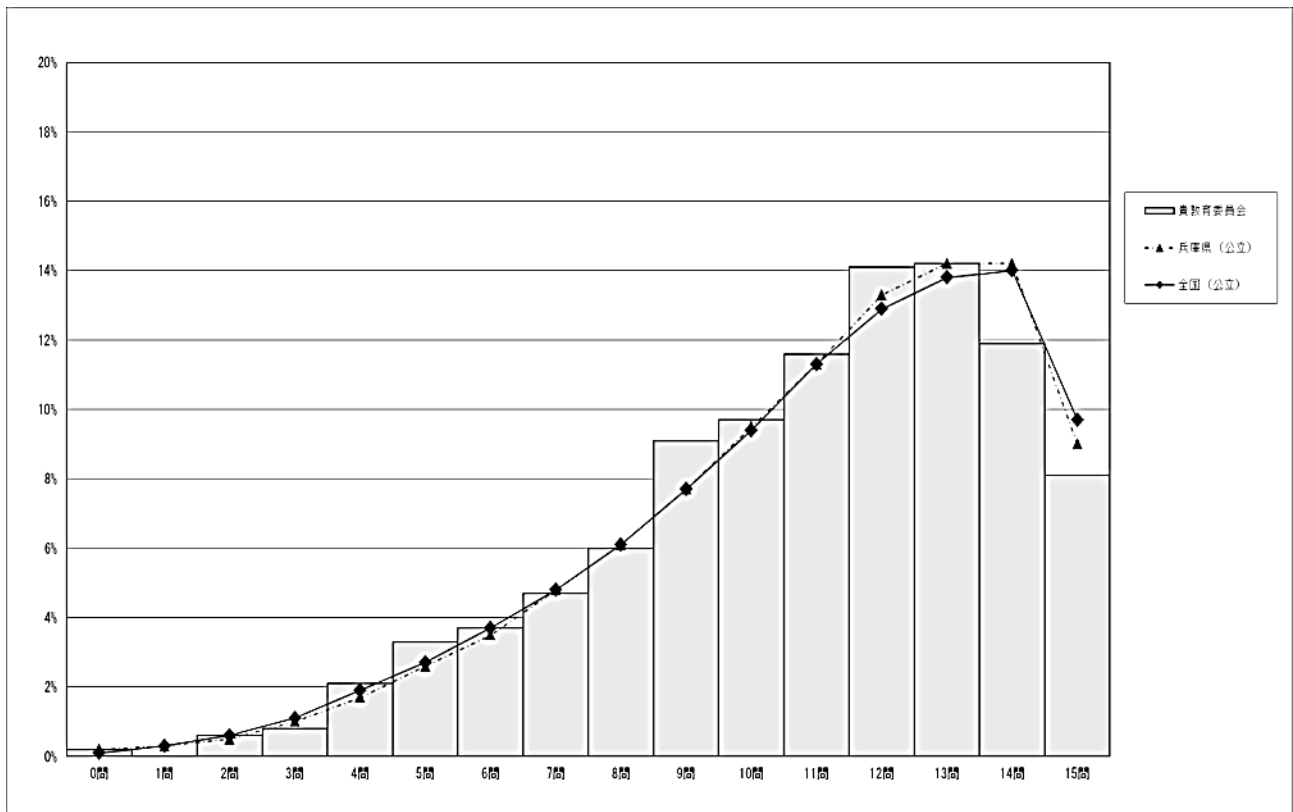


川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると、
 国語A（知識）は72%（兵庫県比-1、全国比-1）
 国語B（活用）は56%（兵庫県比-2、全国比-2）である。
 全国と比較して、いずれも±5%の範囲内にある。

②度数分布図

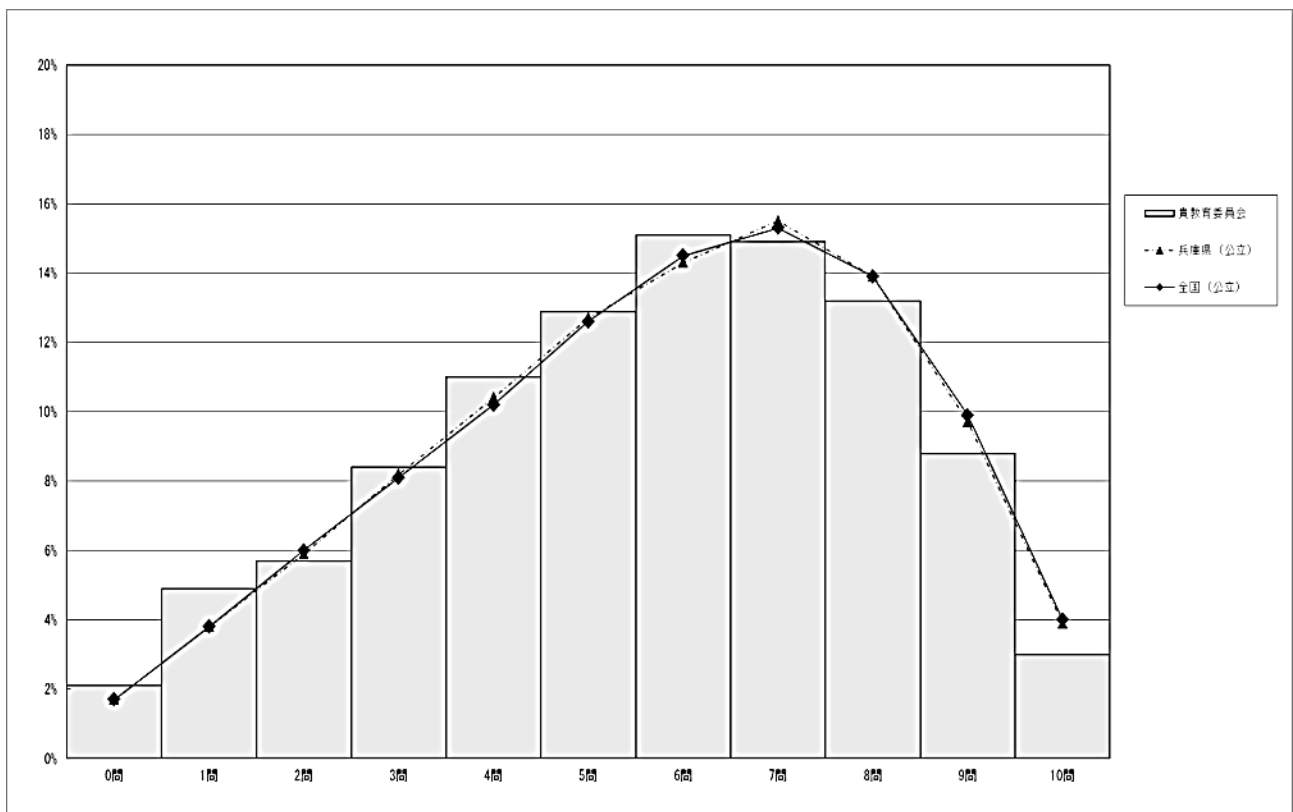
【国語 A】

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



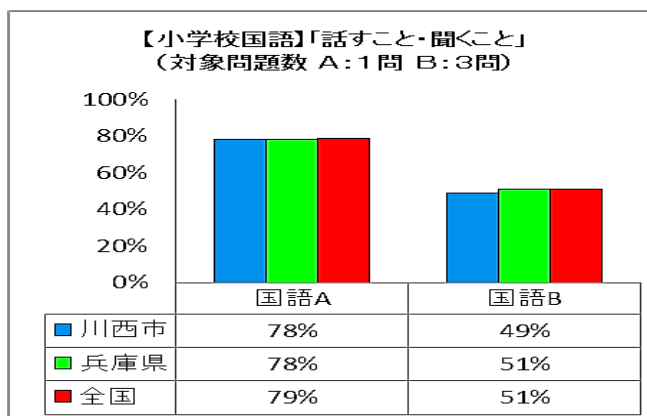
【国語 B】

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



③領域・事項別の平均正答率

<話すこと・聞くこと>



◆ 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することに課題がある。 【B1三】

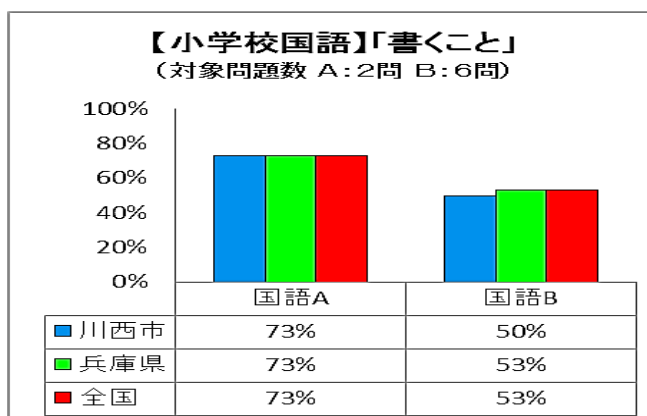
インタビューなどで、自分の聞きたいことを明確にし、相手の話の内容を十分に聞き取る際は、

- ①事前にインタビューメモを作成するなど、調査の目的に応じて質問する内容を整理しておくこと
- ②目的に応じて、相手の意図は何か、自分の予想との違いは何か、自分の考えとの共通点や相違点は何かなどを観点として、相手の話を注意深く聞くこと

が、大切である。

相手の話の内容を確認した上での質問、相手の話を言い換えて確認するための質問、相手の話の内容と関連付けての質問など、話の展開に沿って質問の仕方を工夫できるよう学習することが大切である。

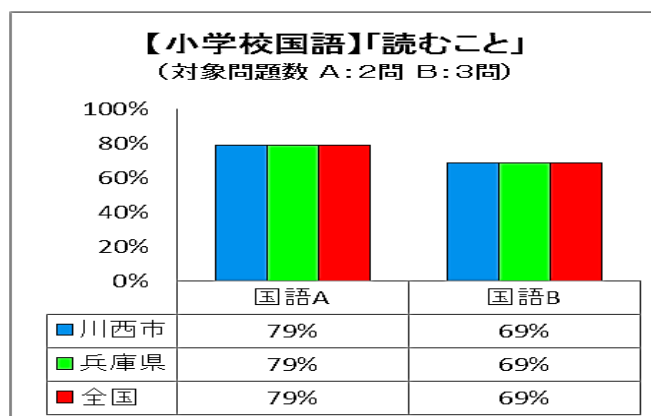
<書くこと>



◆ 目的や意図に応じて、表やグラフを基にした文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを書くことに課題がある。 【B2二(1)】

自分の考えを書く際には、示すべき事実を図解や表・グラフで示されている方が、相手に伝わりやすく説得力が高まることを理解することが大切である。そのためには、自分が選んだ図表やグラフは伝えたいことに合っているのか、また、図表やグラフから読み取ったことを分かりやすく書いて自分の考えが伝えられているかを確認する学習活動が必要である。

<読むこと>



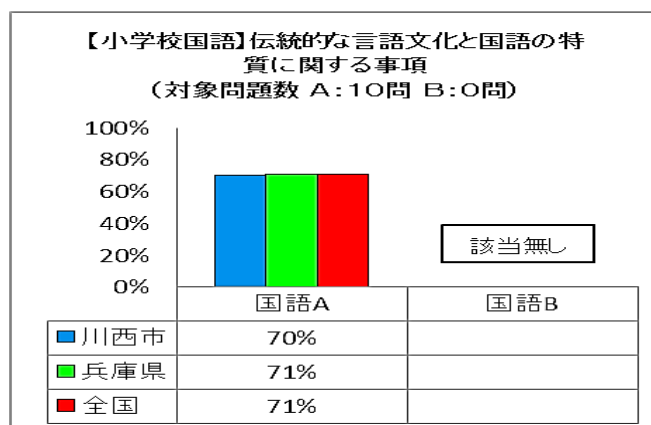
- ◇ 目的に応じて図と表とを関連付けて読むことについては、相当数の児童ができている。【A5】
- ◇ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことは理解できている。【B3一】
- ◇ 目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫することは理解できている。

【B3二】

- ◆ 登場人物の人物像について、複数の叙術を基にして捉える。【A6】

登場人物の人物像を捉える際は、登場人物の行動や会話などに即しながら特徴や性格を押さえて読むことが大切である。登場人物の性格がよく表れている行動や会話などは、複数描かれていることがあるため、それらを関連付けながら読むことが重要である。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>



- ◇ 本年度出題された漢字の読みと書きについては、理解できている。【A1一1～二3】

- ◆ 濁音や促音を含む平仮名で表記されたものをローマ字で書くこと、拗音を含んだローマ字で表記されたものを正しく読むことに課題がある。【A8】

ローマ字については、当該学年での学習にとどまらず、繰り返し読んだり書いたりすることが大切である。その際、たとえば、ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットを読んだり、新聞や作文をつくる際にコンピューターを使用しキーボードで入力するなど、児童がローマ字の必要性を感じられるような学習活動が必要である。

調査結果 中学校国語

①教科全体の正答の状況

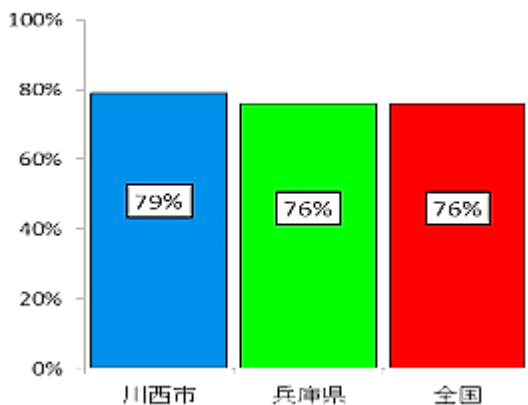
国語A

	平均正答数	平均正答率
川西市	26.1問/33	79%
兵庫県	25.1問/33	76%
全国	25.0問/33	76%

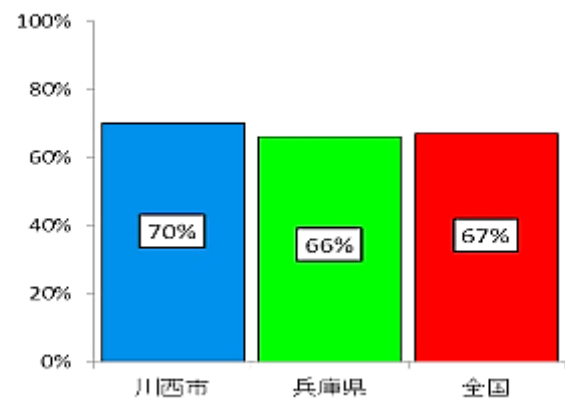
国語B

	平均正答数	平均正答率
川西市	6.3問/9	70%
兵庫県	5.9問/9	66%
全国	6.0問/9	67%

【中学校】国語A



【中学校】国語B

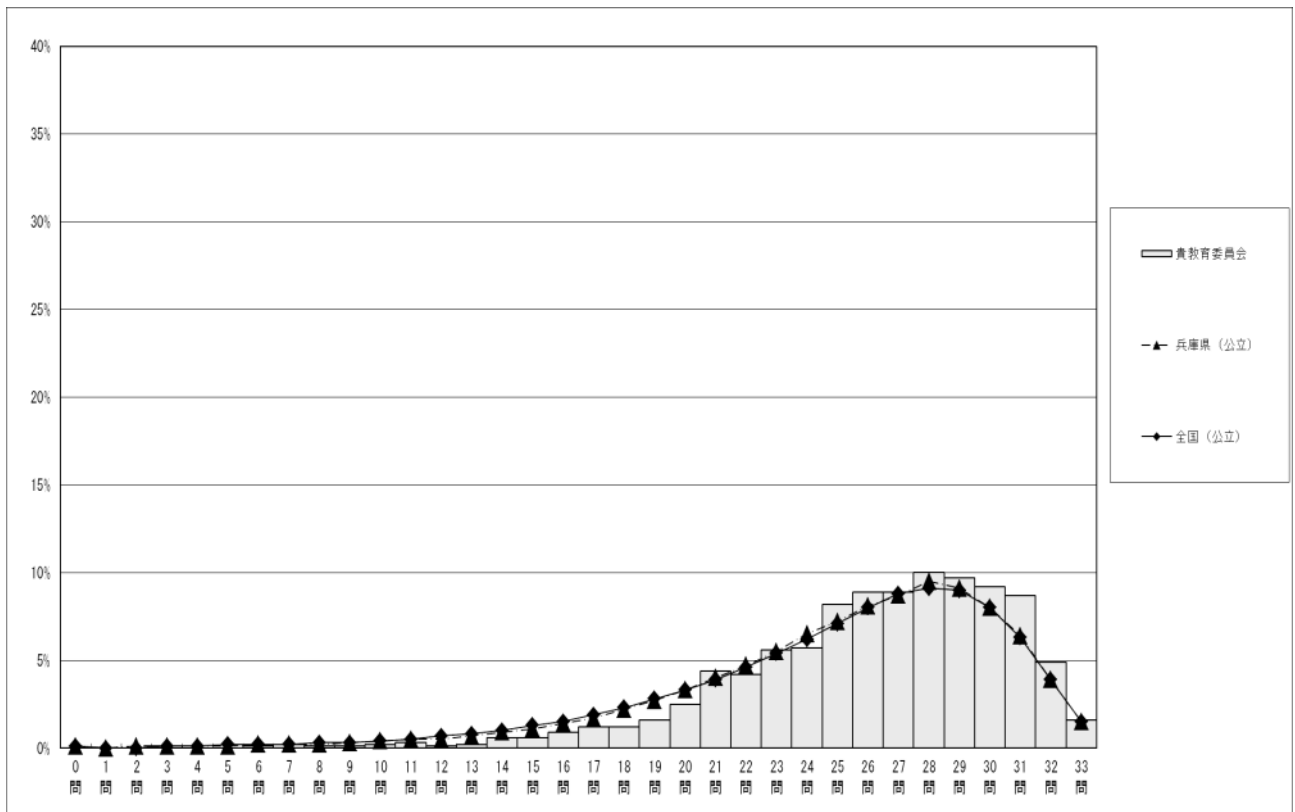


川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると、
 国語A（知識）は79%（兵庫県比+3、全国比+3）
 国語B（活用）は70%（兵庫県比+4、全国比+3）である。
 全国と比較して、いずれも±5%の範囲内にある。

②度数分布図

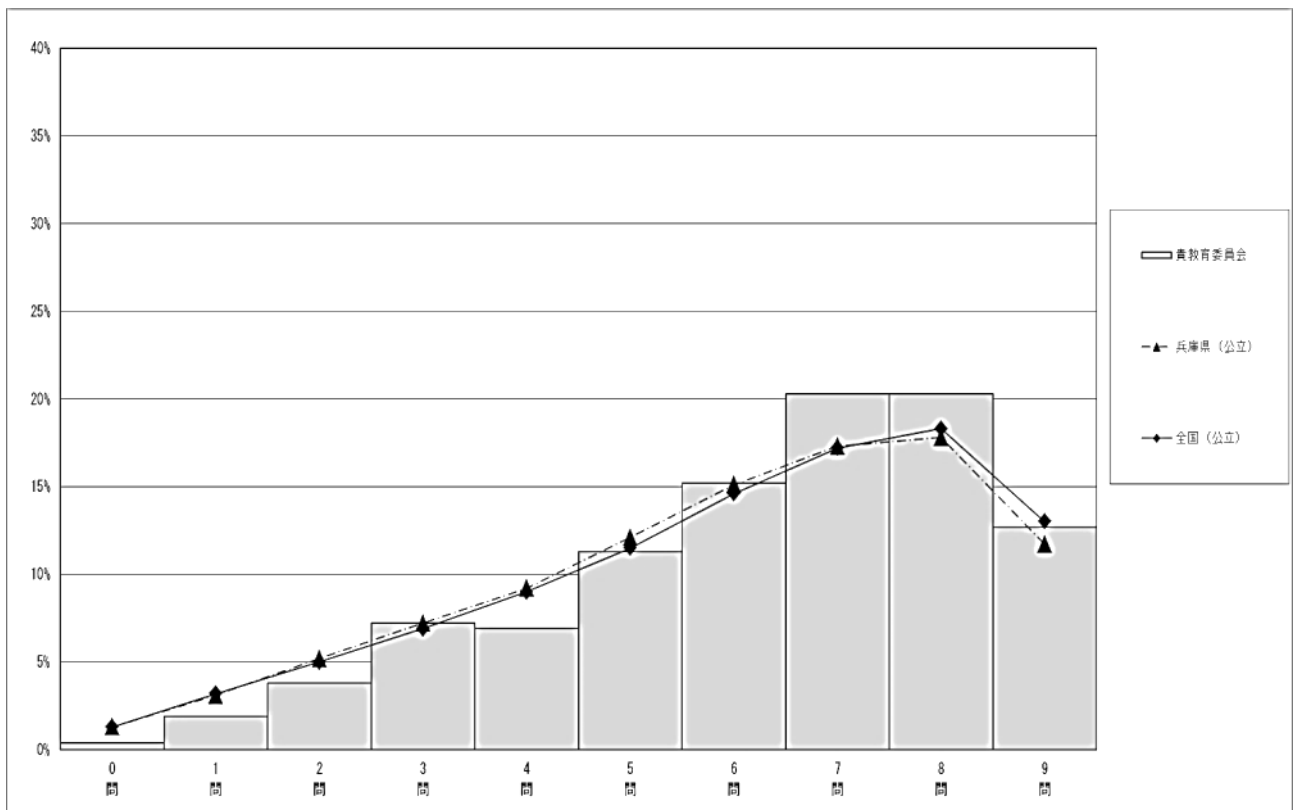
【国語 A】

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



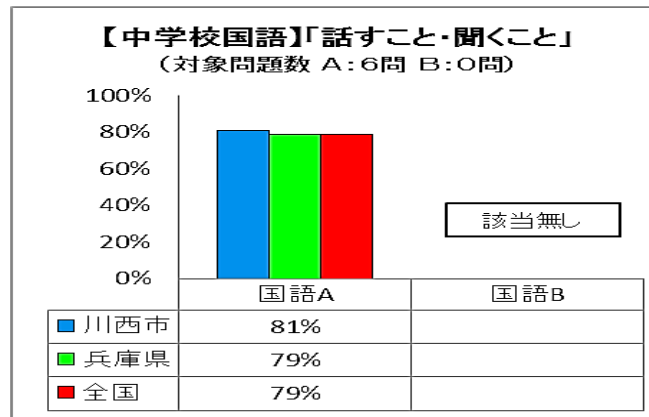
【国語 B】

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



③領域・事項別の平均正答率

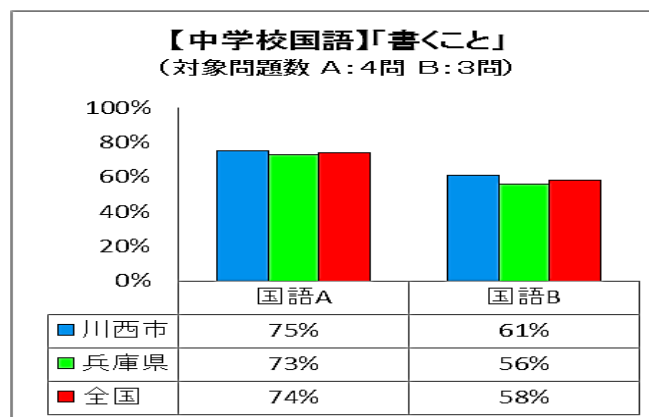
<話すこと・聞くこと>



- ◇ 相手や場に応じた言葉遣いなどに気を付けて話す。 【A2二】
- ◇ 全体と部分との関係に注意して話を構成する。 【A5二】
- ◆ お互いの発言を検討して自分の考えを広げる。 【A7二】

話し合いを通じて自分の考えを広げたり、課題の解決に向けて互いの考えを生かかし合う力を身に付けるために、互いの発言を検討して共通点や相違点を聞き分け、話題になっている物事について別の立場や視点から考えることが大切である。

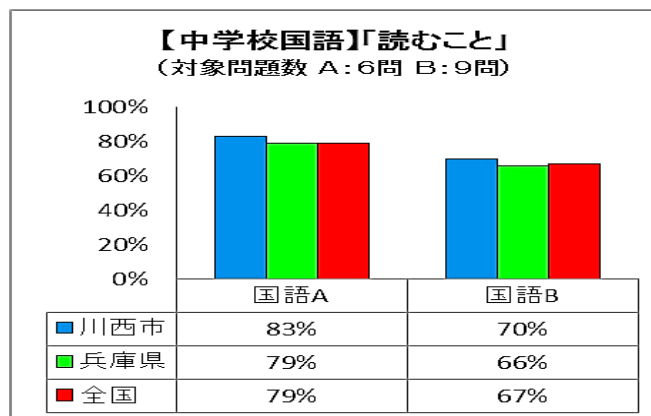
<書くこと>



- ◇ 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書くことは、理解できている。 【A2一】
- ◇ 伝えたい事柄について、根拠を明確にして書くことは、理解できている。 【A4二】
- ◆ 根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことについて課題がある。 【B1三・3三】

自分の考えについて根拠を明確にして書く力を身に付けるために、読み手はその文章を読む意図や目的を意識しながら、考えの根拠となる内容が適切に取り上げられているか、読み手に対してどの部分が根拠であるかが分かるように示されているか、伝えたい事柄にふさわしい語句や文が使われているかなど、文章を複数の観点から見直すことが大切である。

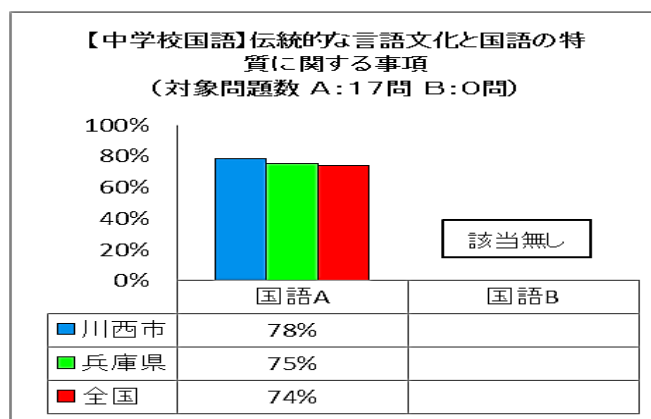
<読むこと>



- ◇ 文脈の中における語句の意味を理解することは、理解できている。 【A3一】
- ◇ 登場人物の言動の意味を考え内容を理解することは、相当数の生徒ができています。 【A3二】
- ◇ 文章の中心的な部分と付加的な部分を読み分け要旨を捉えることは、理解できている。 【B1一】
- ◆ 課題の解決に必要な情報収集の方法を身に付けることや、資料から読み取った情報を適切に活用することに課題がある。 【B2三、3二】

課題の解決に向けて学校図書館やコンピューターなどを利用して情報を収集し整理する学習活動を取り入れることが大切である。また、資料から読み取った情報を適切に活用する力を身に付けるためには、他者と相互に思考を深めたりまとめたりする学習活動が必要である。

<伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>



- ◇ 本年度出題された漢字の読みと書きについては、相当数の生徒が理解している。 【A9一・二】
- ◇ 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについては、一部を除いて相当数の生徒が出来る。 【A9三】
- ◆ 文の成分の照応について理解することに課題がある。 【A9五】

文の成分の照応について理解を深めるには、主語と述語、修飾語と被修飾語などの文の成分の名称を結び付けながら確認する学習活動が必要である。たとえば、書いた文章を読み返す際に、推敲の観点の一つとして取り上げ、語順や語の照応による表現の違いについて検討するなどの学習活動が効果的である。

調査結果 小学校算数

①教科全体の正答の状況

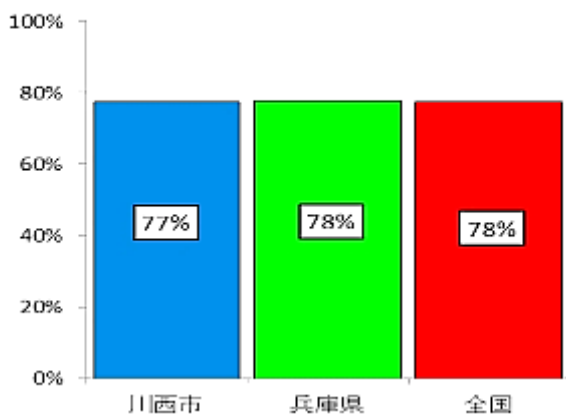
算数A

	平均正答数	平均正答率
川西市	12.4問/16	77%
兵庫県	12.4問/16	78%
全国	12.4問/16	78%

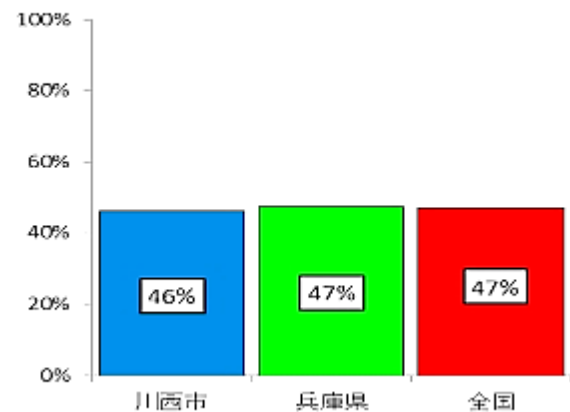
数学B

	平均正答数	平均正答率
川西市	6.0問/13	46%
兵庫県	6.2問/13	47%
全国	6.1問/13	47%

【小学校】算数A



【小学校】算数B

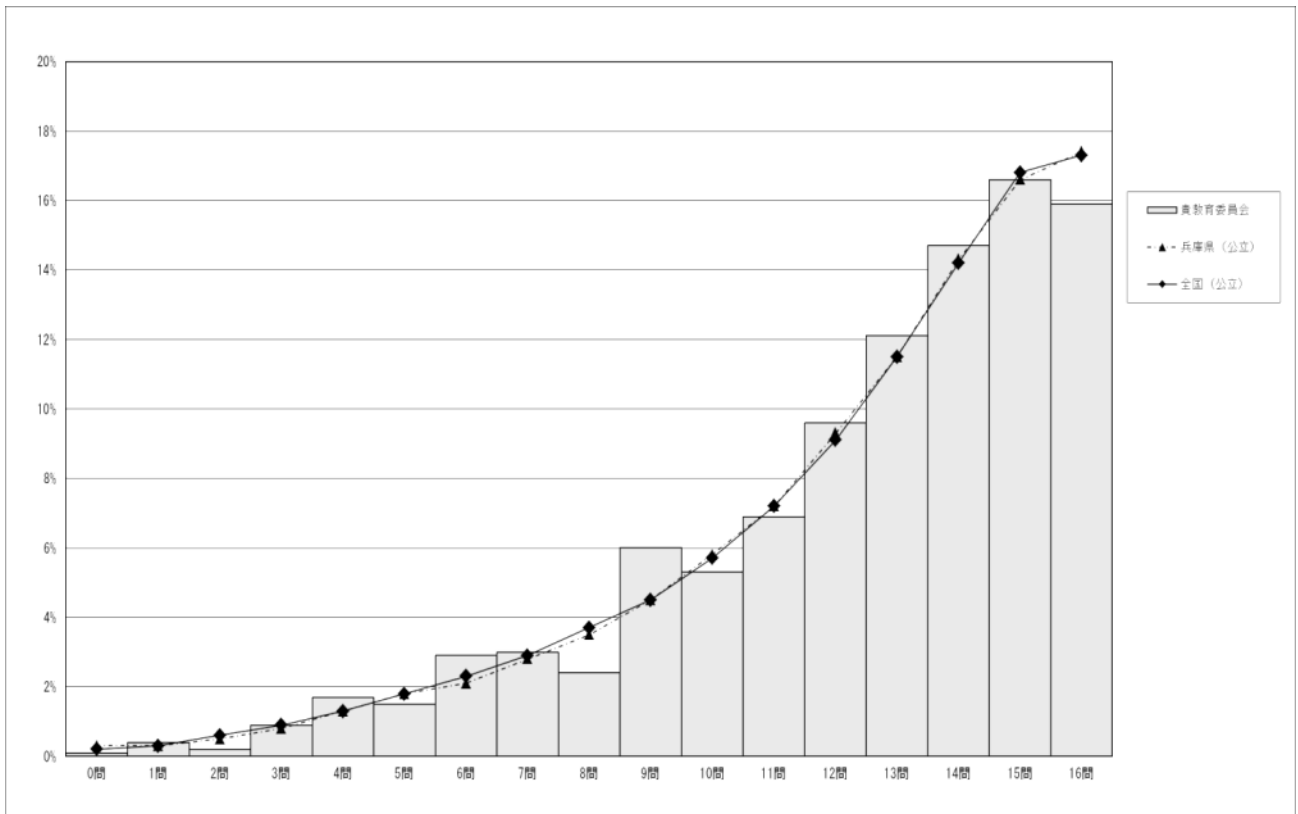


川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると、
 算数A（知識）は77%（兵庫県比-1、全国比-1）
 算数B（活用）は46%（兵庫県比-1、全国比-1）である。
 全国と比較して、いずれも±5%の範囲内にある。

②度数分布図

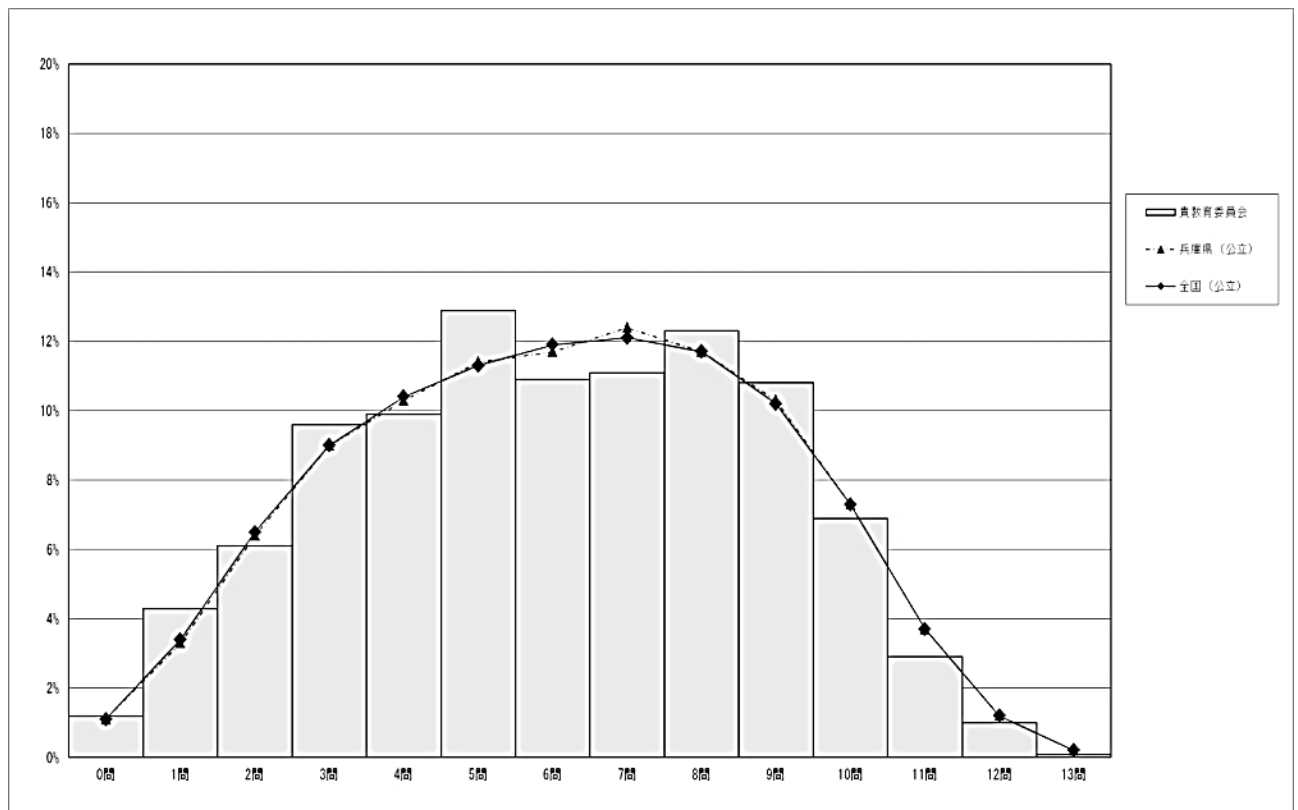
【算数 A】

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



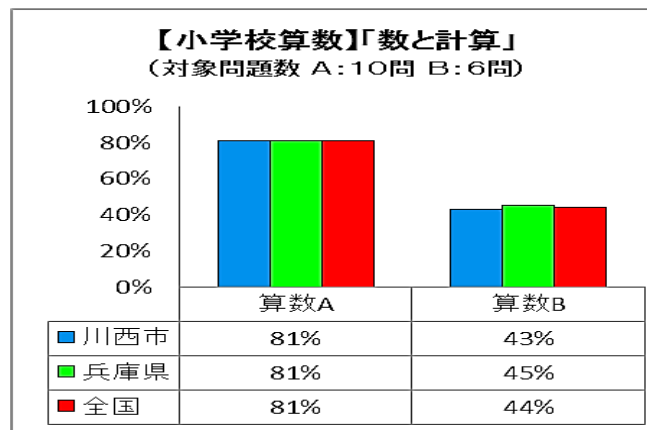
【算数 B】

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



③領域・事項別の平均正答率

<数と計算>



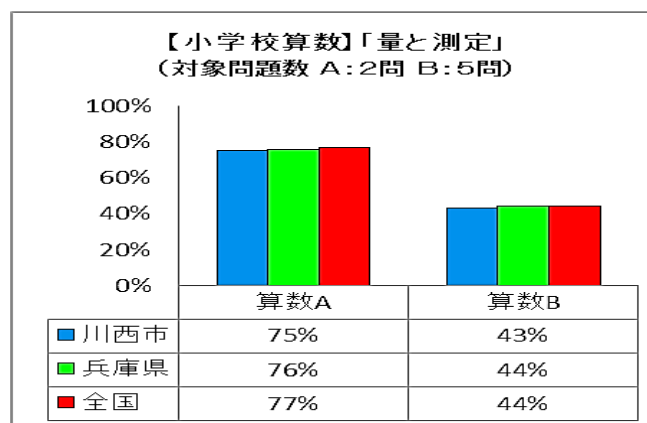
◇ 小数の除法、繰り下がりのある減法の計算をすることは理解できている。【A2】(1)(3)

◇ 不等号は相当数の児童ができています。【A3】(1)

◆ 示された式の中の数値の意味を解釈することに課題がある。【B3】(1)

除法の意味について学習する際に、全体をいくつかと同じように分ける場合（等分除）、全体をいくつかずつに同じように分ける場合（包含除）があることを理解し、具体的な場面に合わせて、その違いを説明する学習活動が必要である。

<量と測定>



◇ 水平な辺を底辺としたときの、三角形の底辺と高さの関係については理解できている【A5】

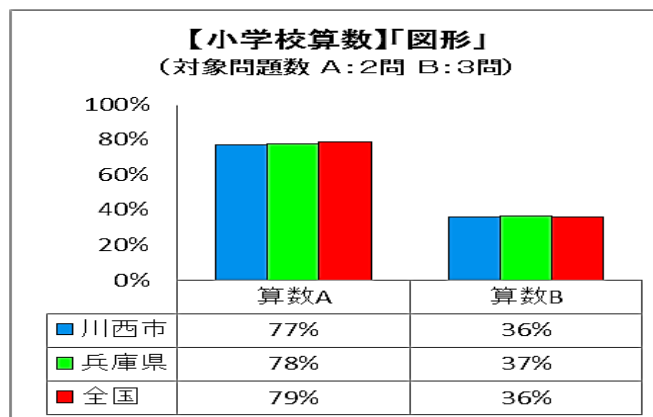
◆ 単位量当たりの大きさを理解することに課題がある。【A4】【B4】(1)

混み具合については、たとえば、単位量当たりの大きさの人数、1㎡当たりの人数を求めることで、的確に判断できるようになる。このように単位量当たりの大きさを活用して、適切に判断する学習活動が大切である。

◆ 示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述することに課題がある。【B1】(2)

問題を解決した後、数値や形などの条件を変えて、発展的に考えることが大切である。基本的な問題で用いた考えを適用して、新たな問題が解決できることを実感することが大切である。

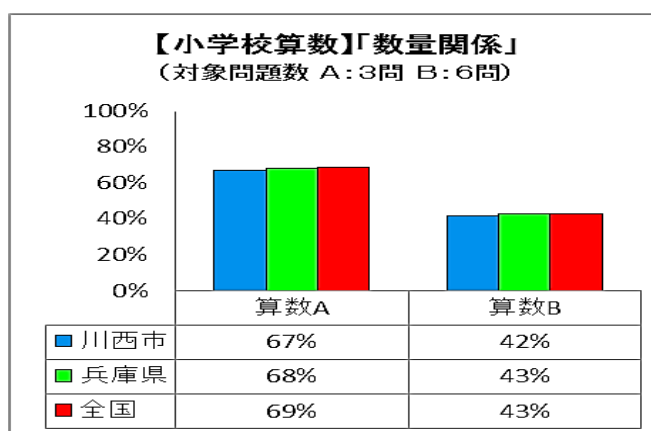
<図形>



◆ 図形の構成要素に着目して、図形を構成することに課題がある【A6】

図形の構成に関する学習活動においては、図形の構成要素に着目して、構成できる図形を予想したり、構成できた根拠を説明したりすることが大切である。また、図形の性質を理解する際には、学習の系統性を意識しながら、具体物を用いた活動も取り入れることで、理解の充実を図ることが必要である。

<数量関係>



◇ 示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表すことは理解できている。【A9(1)】

◆ 1を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解することに課題がある。【A9(2)】

割合を活用して問題を解決するためには、基準量と比較量、割合の関係を正しく捉える必要がある。その際、問題場面のイメージを数直線などを用いて表現することで、何が基準量に当たるかを理解する学習活動が大切である。

◆ 示された資料のほかに必要な情報を判断し、特定することに課題がある。【B4(1)】

問題を解決するために必要な情報は何かを適切に判断し、資料などからその情報を取り出すことができるような学習活動が大切である。また、資料から解釈したり、判断したことを伝える際には、考えた道筋や根拠となる事柄を過不足なく示して説明することができるようにしていくことも大切である。

調査結果 中学校数学

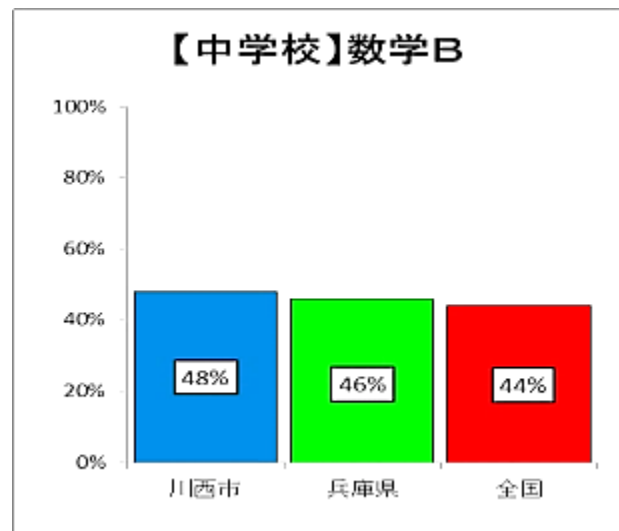
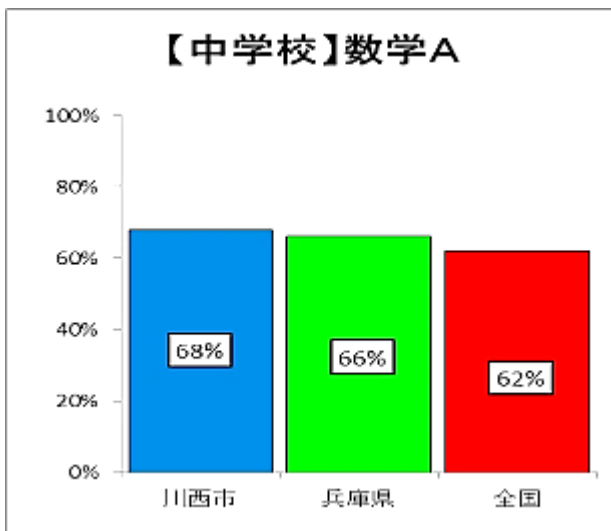
①教科全体の正答の状況

数学A

	平均正答数	平均正答率
川西市	24.5問/36	68%
兵庫県	23.7問/36	66%
全国	22.4問/36	62%

数学B

	平均正答数	平均正答率
川西市	7.2問/15	48%
兵庫県	6.8問/15	46%
全国	6.6問/15	44%

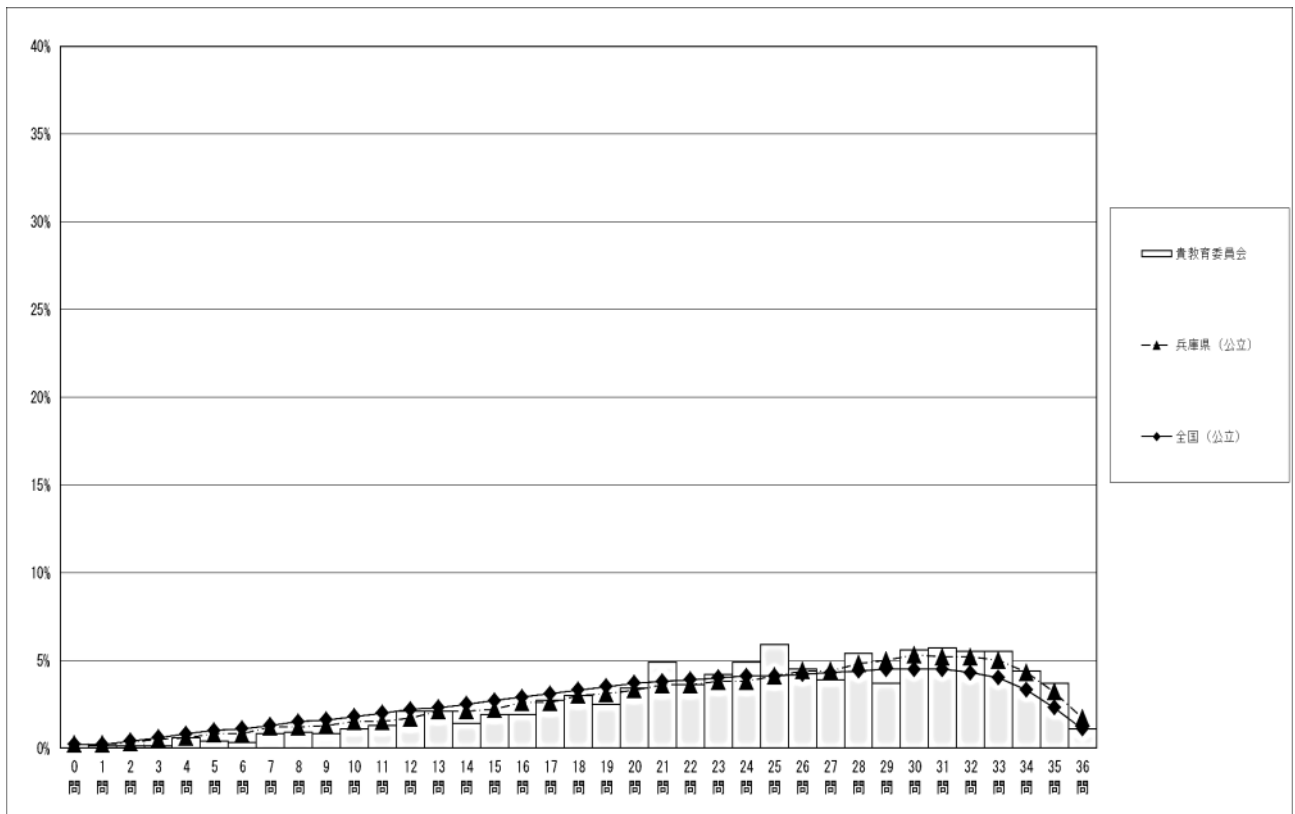


川西市平均正答率を兵庫県、全国と比較すると、
 数学A（知識）は68%（兵庫県比+2、全国比+6）
 数学B（活用）は48%（兵庫県比+2、全国比+4）である。
 全国と比較して、いずれも±5%の範囲内または上回っている。

②度数分布図

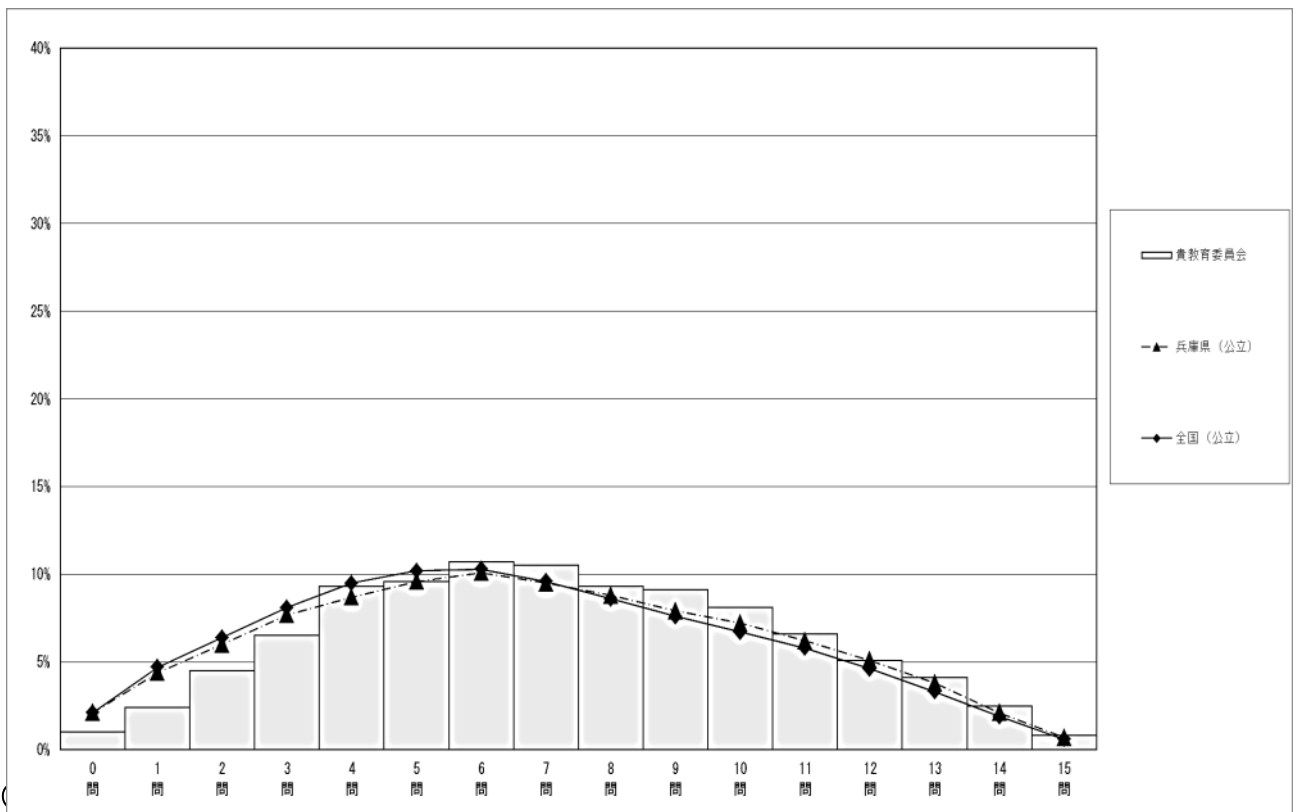
【数学A】

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



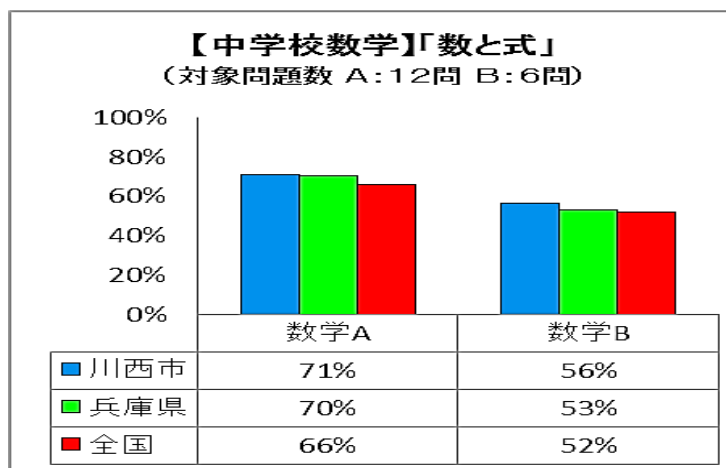
【数学B】

正答数分布グラフ（横軸：正答数，縦軸：割合）



③領域・事項別の平均正答率

<数と式>



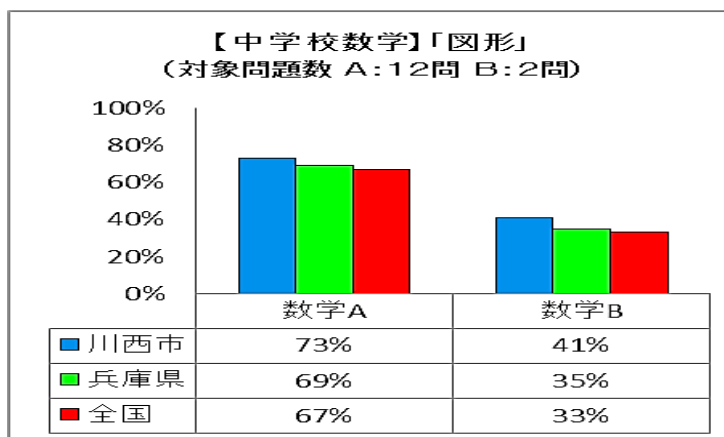
- ◇ 正の数と負の数の加法の計算、整式の加法と減法の計算、二つの等号で結ばれている方程式が表す関係を読み取り二つの二元一次方程式で表すことは、相当数の生徒ができています。

【A1】(3)、A2】(2)、A3】(4)】

- ◆ 自然数の意味の理解について課題がある。 【A1】(2)】

正の数と負の数の範囲で数の集合を捉え直す場面を設定するなど、数についての理解を深め、自然数や整数の意味を理解できるような学習活動が必要である。その際、「0」は整数に含まれるが、自然数には含まれないことも確認することが大切である。

<図形>



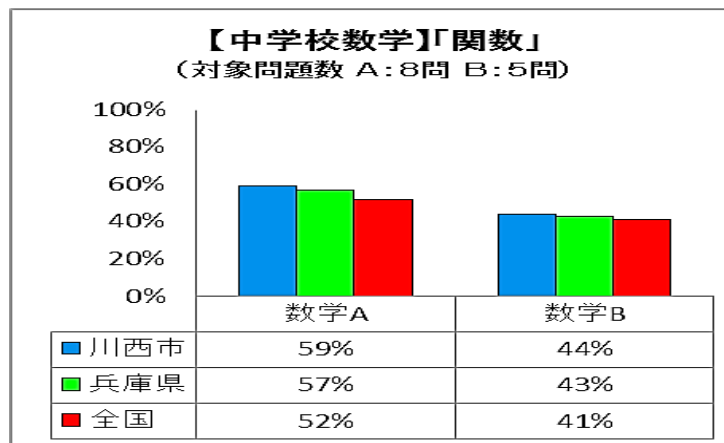
- ◇ 空間における直線と直線との位置関係を理解することはできている。 【A4】(1)】
- ◇ 平行線や角の性質を用いて、角の大きさを求めることは理解できている。 【A6】(1)】
- ◇ ひし形について対角線が垂直に交わることを、記号を用いて表すことは理解できている。

【A7】(2)】

- ◆ 付加された条件の下で、新たな事柄を見だし、説明することに課題がある。 【B4】(2)】

新たに条件を加えた際に、見出した事柄の前提にあたる条件と、それによって説明される結論について検討し、それらを数学的に表現する学習活動が大切である。

<関数>



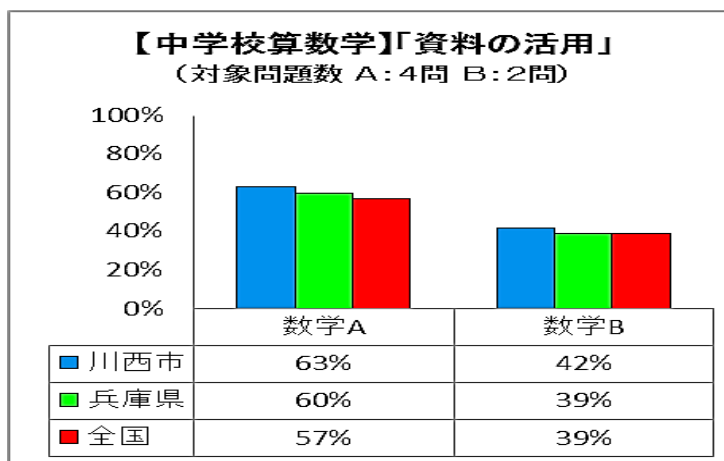
◇ 比例の関係を表す表から変化や対応の特徴を捉え、 x の値に対応する y の値を求めることは、相当数の生徒ができている。 【A9】(1)

◇ 与えられた情報から必要な情報を選択し、的確に処理することは理解できている。 【B3】(1)

◆ 反比例のグラフ上の点の座標から、 x と y の関係を式で表すことについては課題がある。 【A9】(4)

グラフの特徴と式を関連付けて考察する場面を設定し、反比例のグラフから x と y の関係を式で表すといった学習活動が必要である。また、反比例のグラフには、 x 軸と y 軸のそれぞれに限りなく近づくが交わらないという特徴があることも確認することが大切である。

<資料の活用>



◇ 「同様に確からしい」ことの意味や、前の試行が次の試行に影響しないことは理解できている。 【A13】(1)

◇ 簡単な場合について、確率を求めることは理解できている。 【A13】(2)

◆ 資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。 【B5】(1)

収集したデータを整理したグラフの形から分布の特徴を視覚的に捉えたり、代表値を求めて比較したりするなど、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する学習活動が大切である。

3. 平成 25 年度小学校 6 年生と平成 28 年度中学校 3 年生の調査結果追跡について

※ 平成 25 年度小学校 6 年生は、今年度（平成 28 年度）中学校 3 年生となっており、平成 25 年度と平成 28 年度の調査結果から、同一児童生徒による比較が可能となっている。

学力及び質問紙調査をいかした追跡調査

①教科の平均正答率の比較

【平成 25 年度小学校 6 年生】

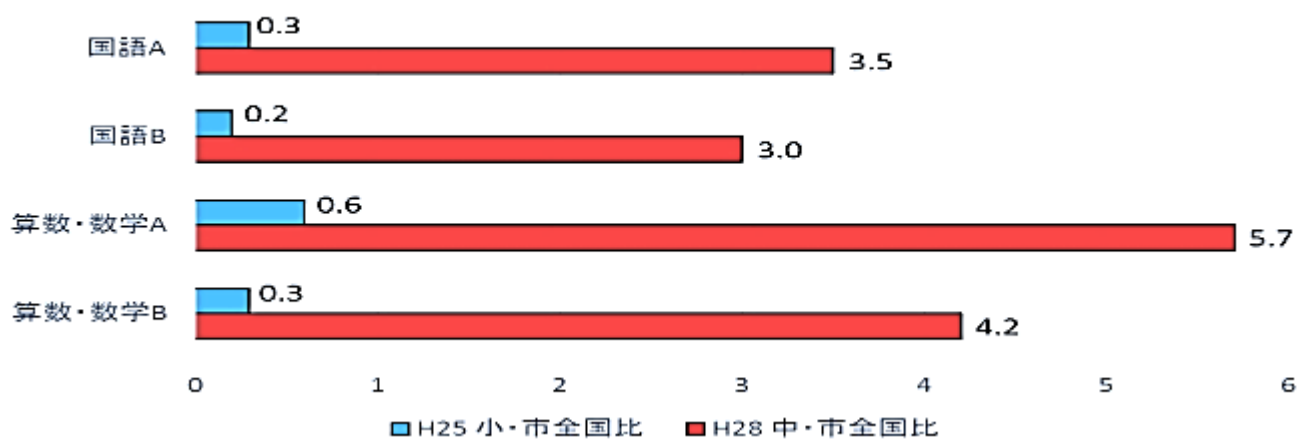
学力向上の状況	平均正答率 (%)		
	川西市	全国	全国との差
国語A	63.0	62.7	0.3
国語B	49.6	49.4	0.2
算数A	77.8	77.2	0.6
算数B	58.7	58.4	0.3

【平成 28 年度中学校 3 年生】

学力向上の状況	平均正答率 (%)		
	川西市	全国	全国との差
国語A	79.1	75.6	3.5
国語B	69.5	66.5	3.0
数学A	67.9	62.2	5.7
数学B	48.3	44.1	4.2

【川西市と全国との平均正答率の差の変化（平成 25 年度→平成 28 年度）】

川西市と全国との平均正答率の差の変化(平成25年度→平成28年度)



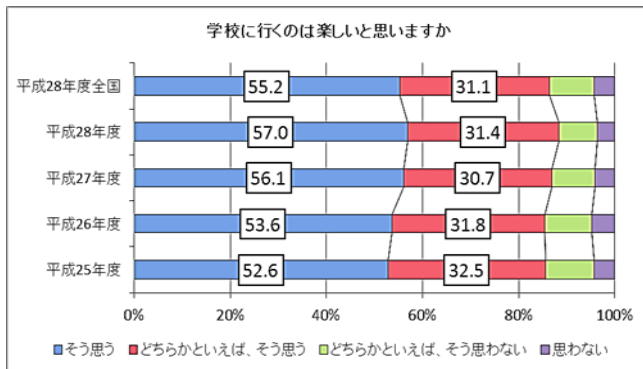
平成 25 年度より、全国学力・学習状況調査が悉皆調査として再開されたことをうけ、平成 28 年度から、同じ調査対象での比較が可能となった。まず、平成 25 年度小学校 6 年生時、川西市の平均正答率と全国の平均正答率を比較すると、0.2 ポイントから 0.6 ポイント上回る結果となっている。中学校 3 年生になった今年度（平成 28 年度）、川西市の平均正答率と全国の平均正答率を比較すると、3.0 ポイントから 5.7 ポイントと、大きく上昇している。

平成 25 年度小学校 6 年生と平成 28 年度中学校 3 年生の川西市と全国との平均正答率の差を比較すると、国語Aで 3.2 ポイント、国語Bで 2.8 ポイント、算数/数学Aで 5.1 ポイント、算数/数学Bで 3.9 ポイント上昇しており、今年度については学力向上が分かる。

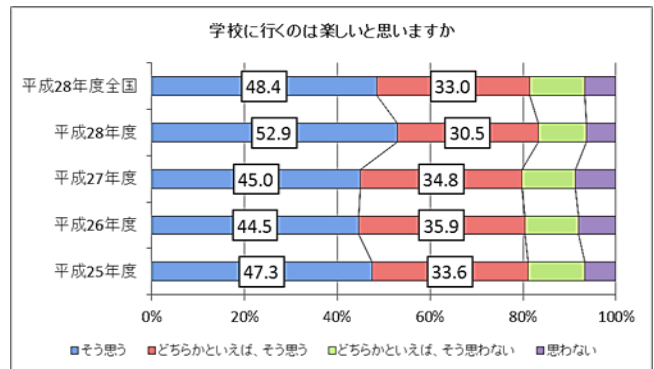
②質問紙調査結果の比較

1) 質問紙項目：「学校に行くのが楽しいと思いますか」

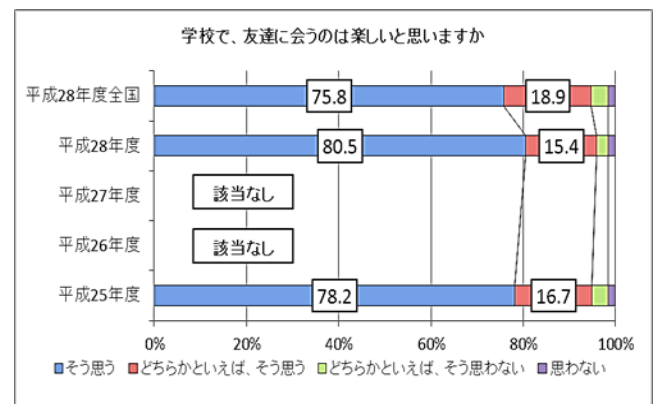
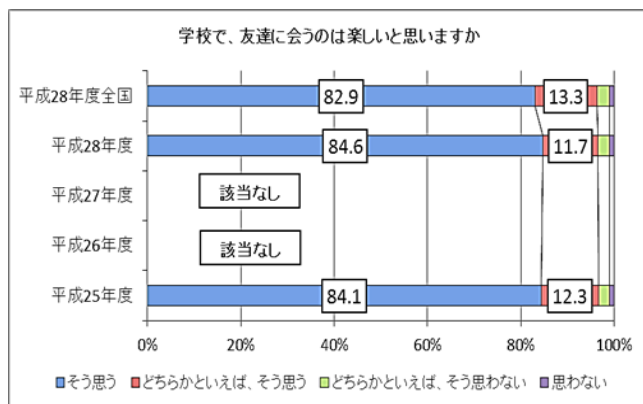
【小学校】



【中学校】



2) 質問紙項目：「学校で、友達に会うのは楽しいと思いますか」



学校へ行くのが楽しい			
	H25 小学校 肯定群	H28 中学校 肯定群	小中比較
川西市	85.1	83.4	-1.7
全国	85.0	81.4	-3.6
全国との差	0.1	2.0	1.9

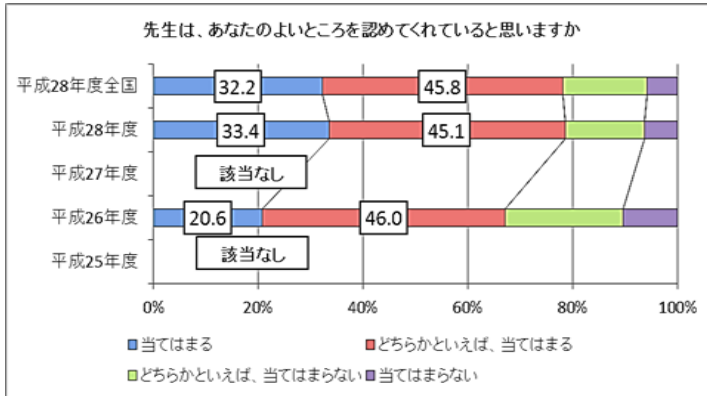
友達に会うのが楽しい			
	H25 小学校 肯定群	H28 中学校 肯定群	小中比較
川西市	96.4	95.9	-0.5
全国	96.0	94.7	-1.3
全国との差	0.4	1.2	0.8

小学校段階での意識が中学校生活で逡減していく傾向は全国的な特徴であるが、川西市において「学校へ行くのが楽しい」「友だちに会うのが楽しい」と肯定的に回答している割合は、全国と比較すると高くなっている。これは、児童生徒が学校や友達の存在について、価値意識が高いことの裏付けである。学校生活が生活の基盤となる児童生徒にとって、学校に価値を見出すことは、安心して緊密な人間関係を育むことにつながる。また、落ち着いた学習環境は、問題行動の発生の抑止にもなる。学力向上の根幹である学校の落ち着きへの取り組みは、川西市が力を入れている教育施策であり、学力向上という結果にも結び付いているといえる。

3) 質問紙項目：「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」

※平成 25 年度該当質問はありません。

【中学校】

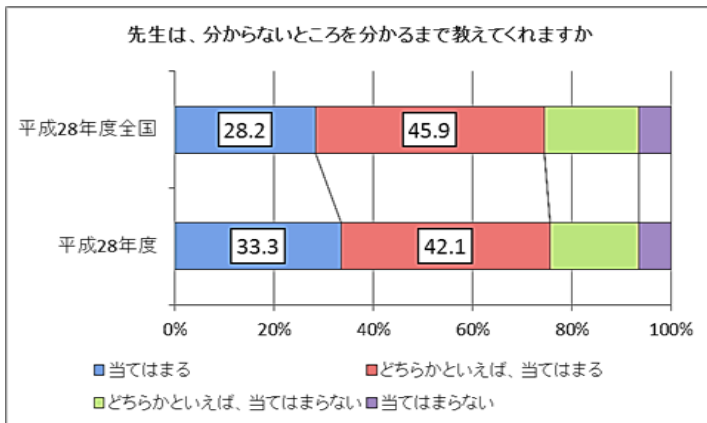


先生はあなたの良いところを認めてくれる	
	中学校肯定群
川西市	78.5
全国	78.0
全国との差	0.5

4) 質問紙項目：「先生は、分からないところを分かるまで教えてくれますか」

※平成 28 年度から新たに設定された質問項目

【中学校】



分からないところを分かるまで教えてくれる	
	中学校肯定群
川西市	75.4
全国	74.1
全国との差	1.3

平成 28 年度においては、平成 25 年度質問紙に該当設問が設定されていないため追跡調査を行うことは難しいが、文部科学省は、教師と児童生徒の関係性と学力向上にも関係があると考えていることが、新たに設問を設定していることから伺える。

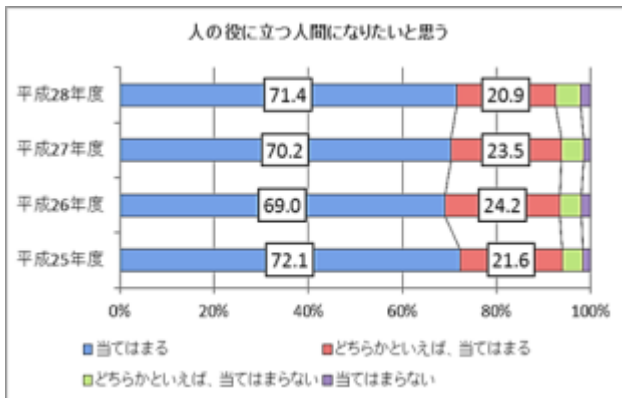
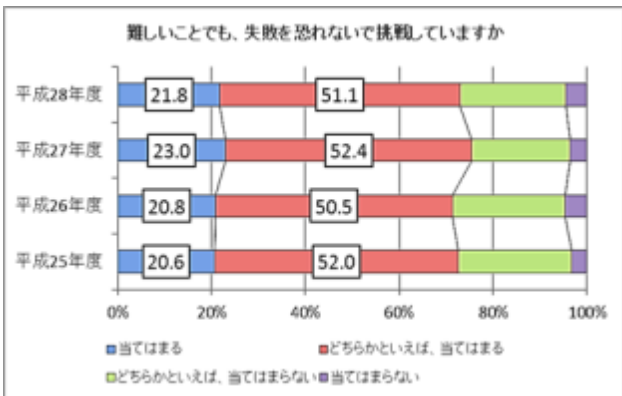
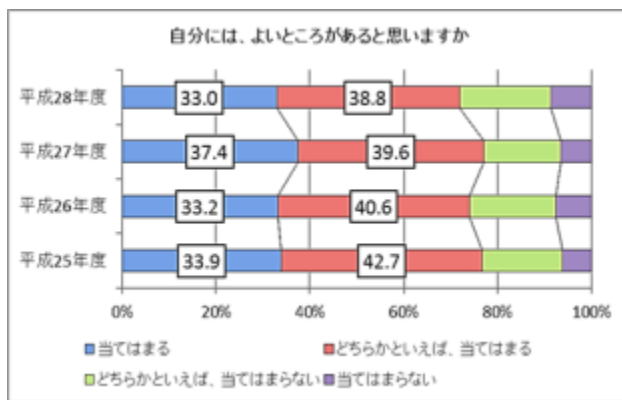
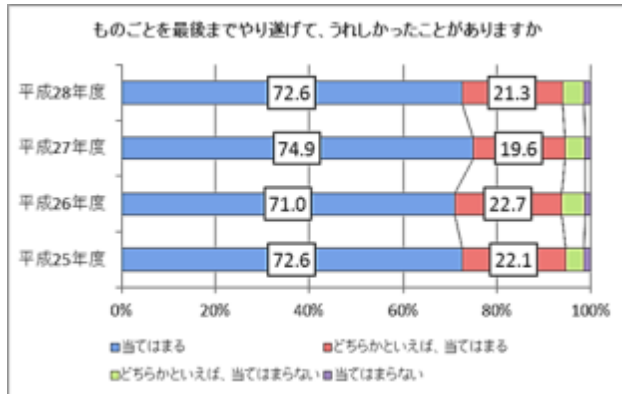
平成 28 年度質問紙調査結果から教師と生徒の関係性についてみると、川西市は全国と比較すると、教職員が子どもたちの良さを認めたいうでの指導がなされていること、学習についても、分からないところを分かるまで指導する丁寧さを子どもたちが感じていることが分かる。

小学校段階で大切に培っている「学校に行くことが楽しい」という意識をベースに、中学校でも教職員の子もたちへの丁寧な関わりを通じて引き継いでいることが、全国と比較しても分かる。中学校の学力が、小学校からさらに向上している理由として、生徒にとっても学校が「魅力ある学びの場」となっていることが大きな要因となっていると考える。

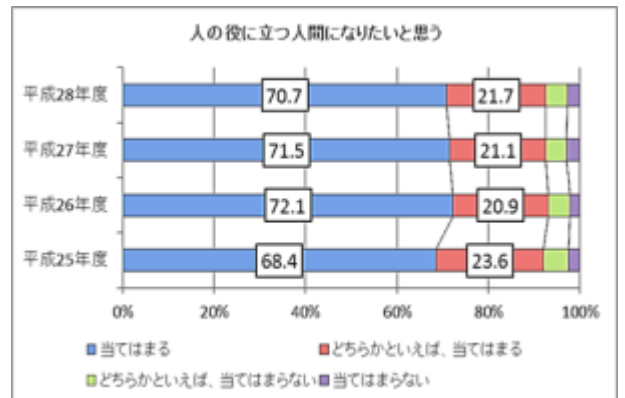
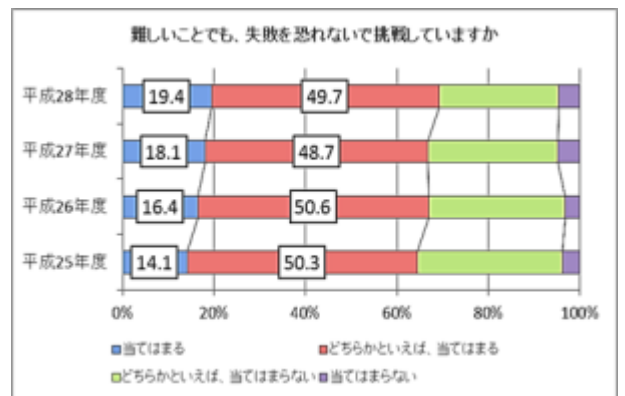
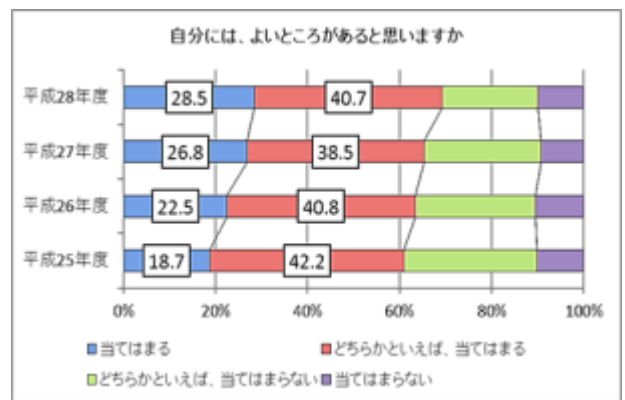
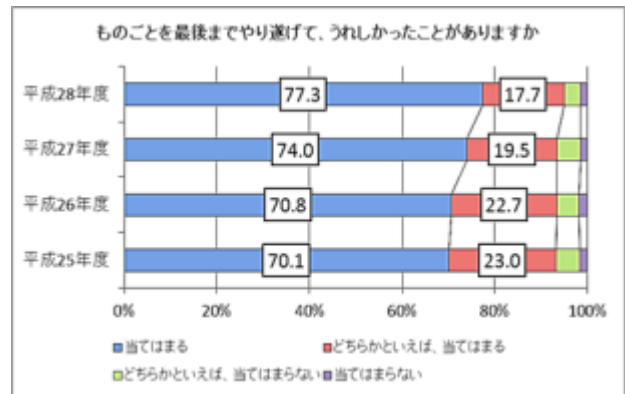
落ち着いた学校環境の下で学習することは、教職員による十分な学習指導や、児童生徒にとってもよき人間関係の中で学びを深めることができる。今後も、学校生活に価値を見いだすことのできる「魅力ある学校づくり」に取り組むことが、川西市の学力向上につながるものとする。

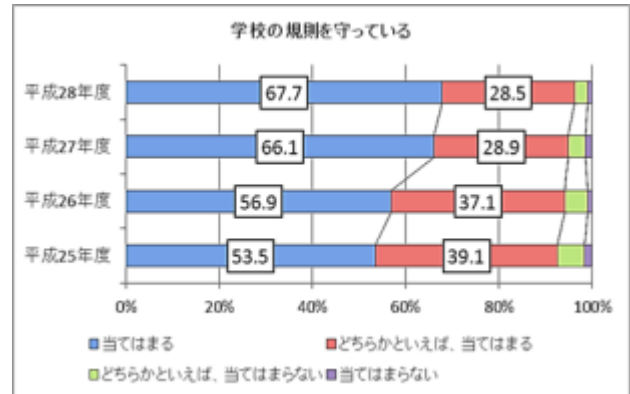
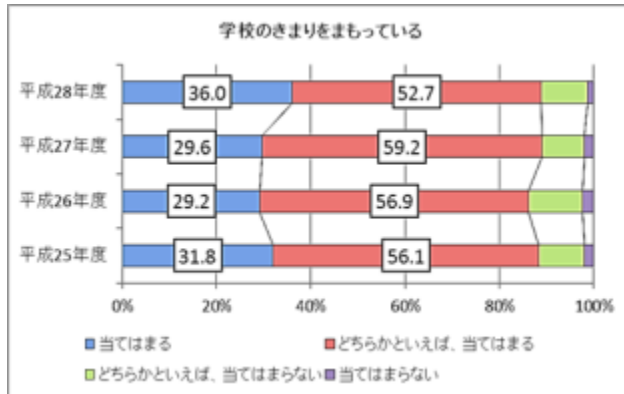
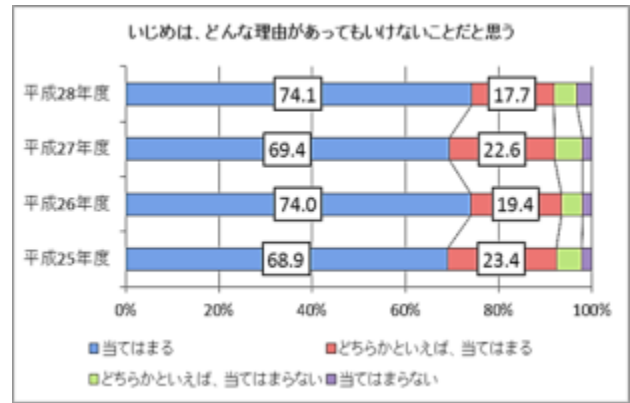
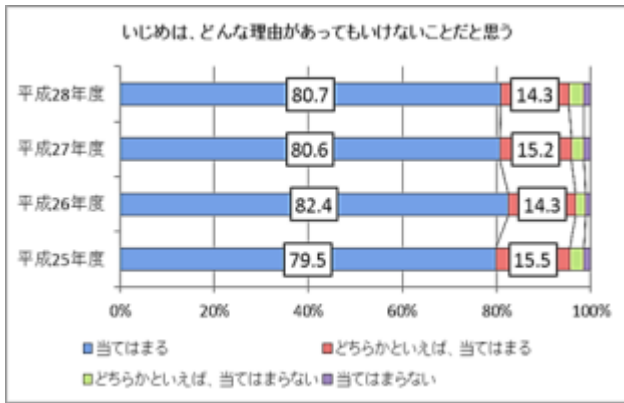
自尊感情と道徳性の高まり

【小学校】



【中学校】





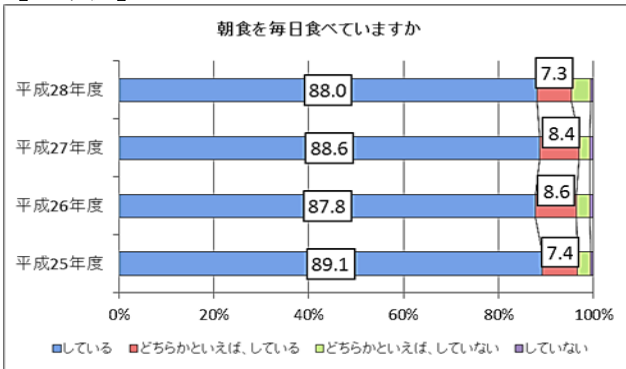
自尊感情に関する質問項目をみても、思春期にさしかかる中学生において、「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」、「自分にはよいところがあると思う」、「難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している」、「人の役に立つ人間になりたいと思う」といった内容において、一定の水準を保っていること及び増加傾向にあるのは、本市の大きな特徴である。心の安定は、子どもたち同士互いに支え合い、励まし合う生活集団の基礎となるとともに、「確かな学力」を育む学習集団への変容にもつながることから、引き続き、子どもたちの自尊感情を育む活動の充実を図ることが大切である。

(☛ P39 川西市教育委員会) (☛ P40 学校) (☛ P40 家庭)

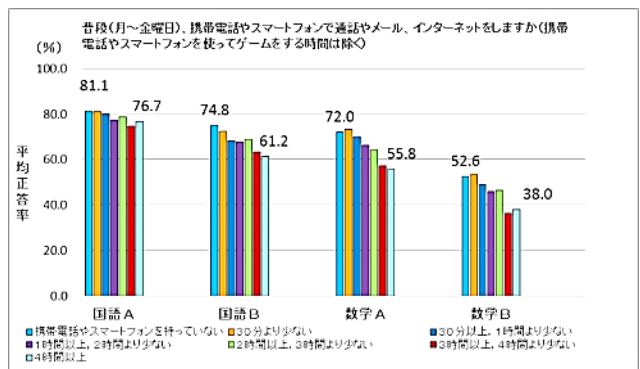
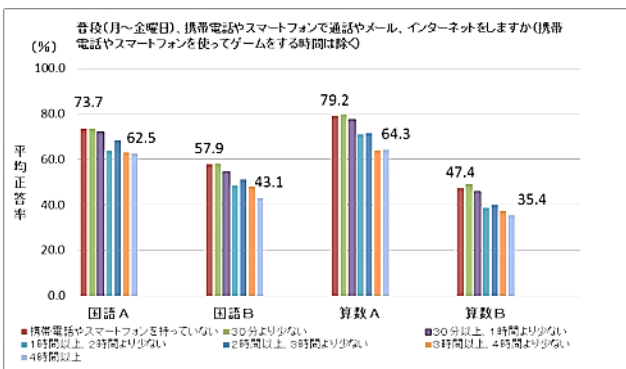
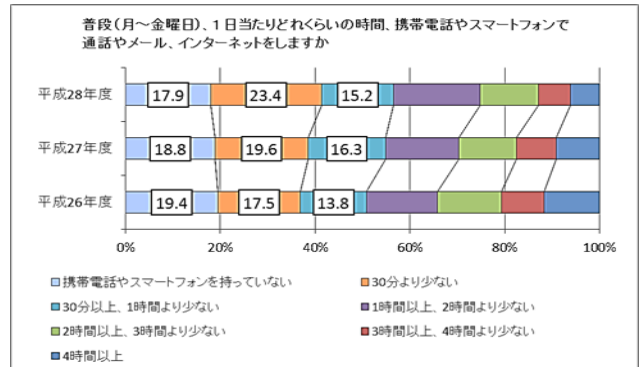
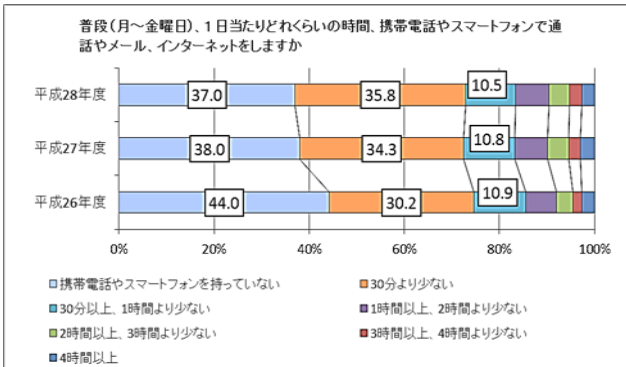
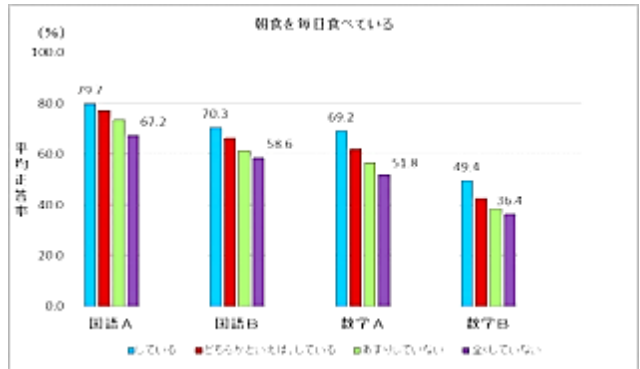
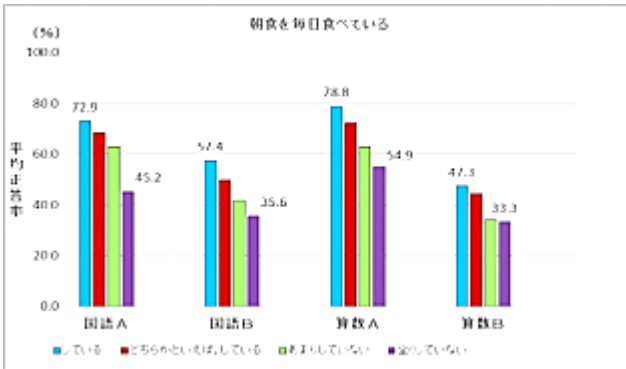
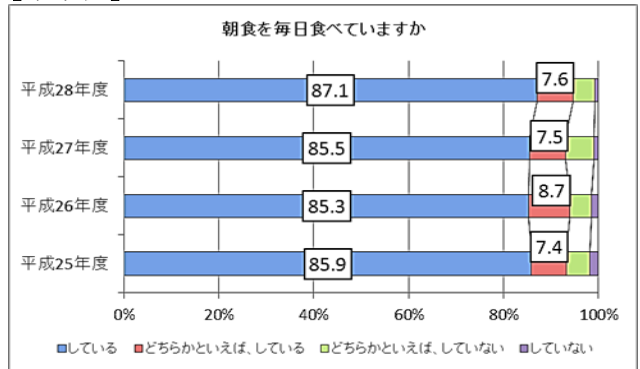
4. 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果経年比較並びに平成 28 年度質問紙調査結果と学力のクロス分析

質問紙調査結果

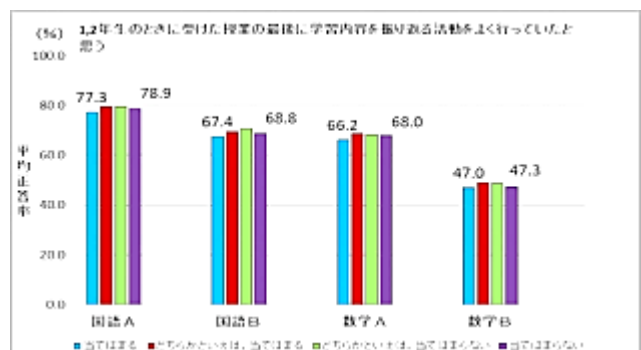
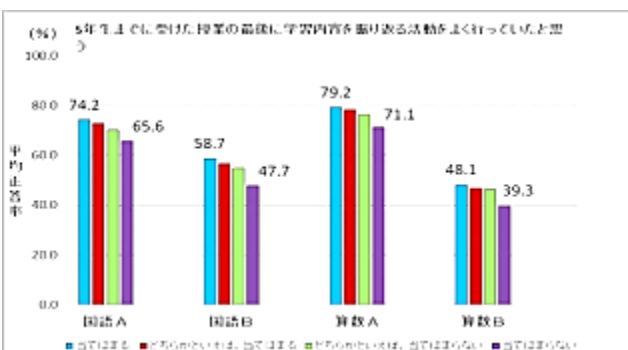
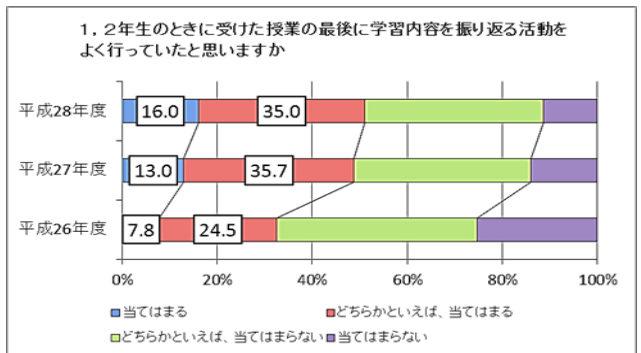
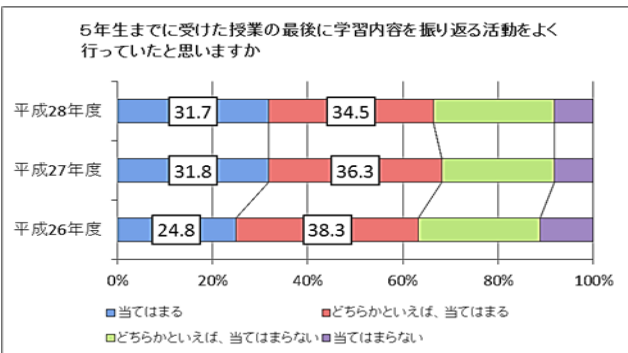
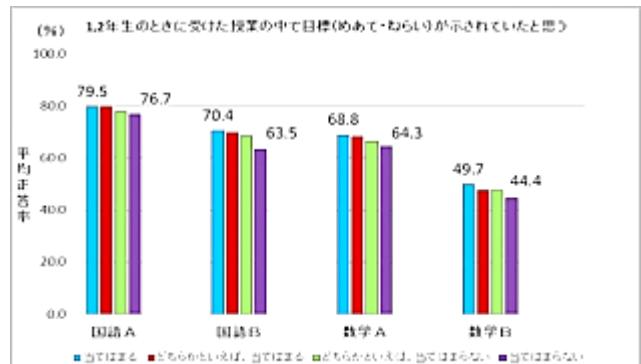
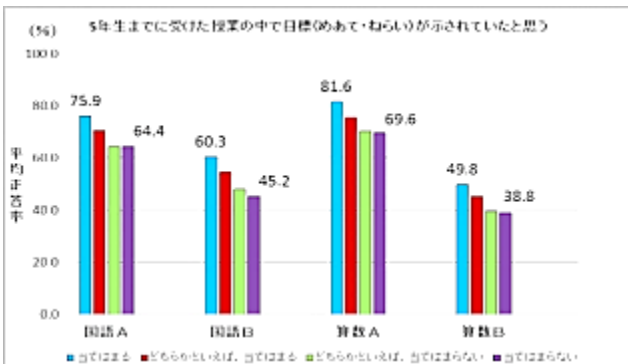
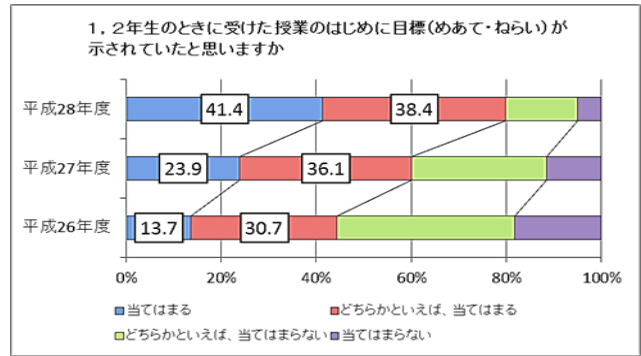
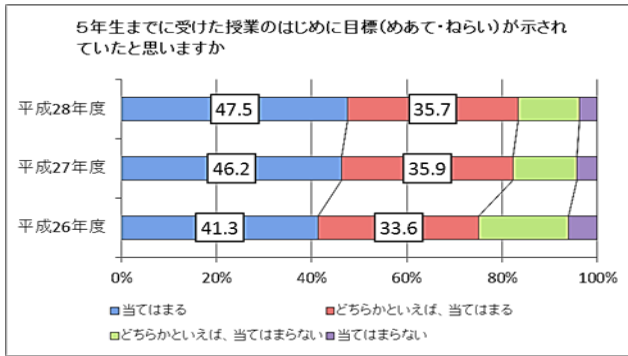
【小学校】



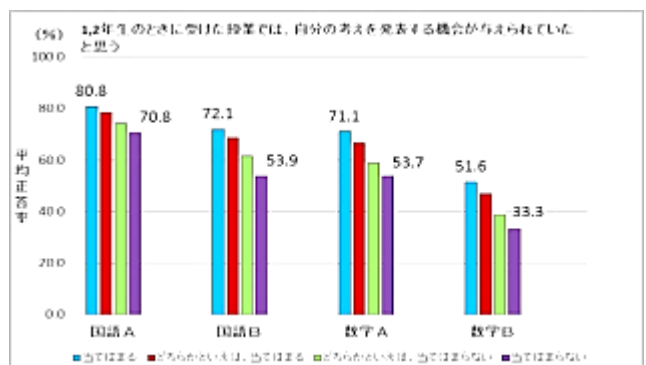
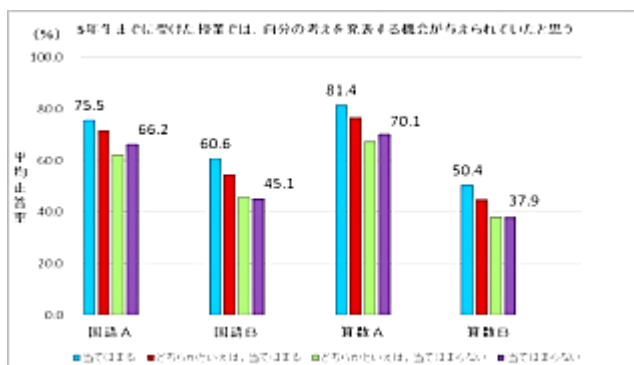
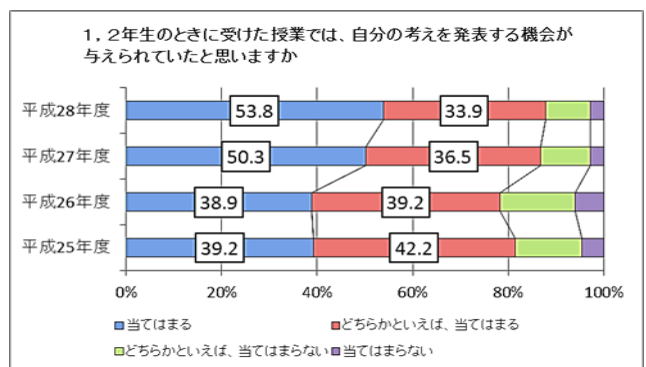
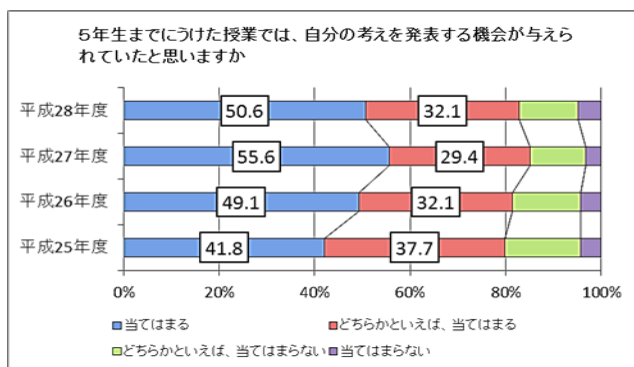
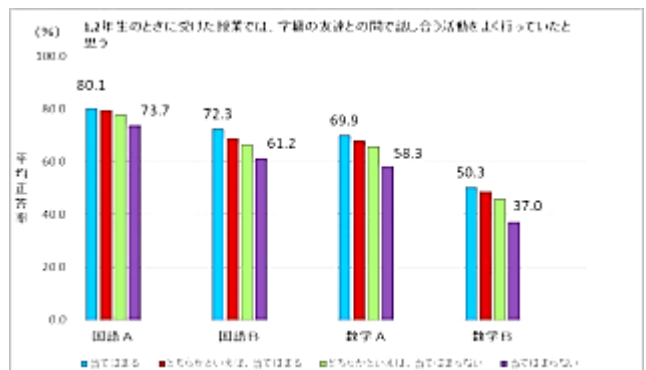
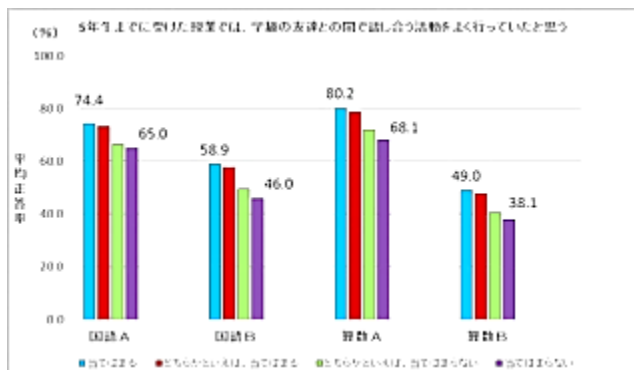
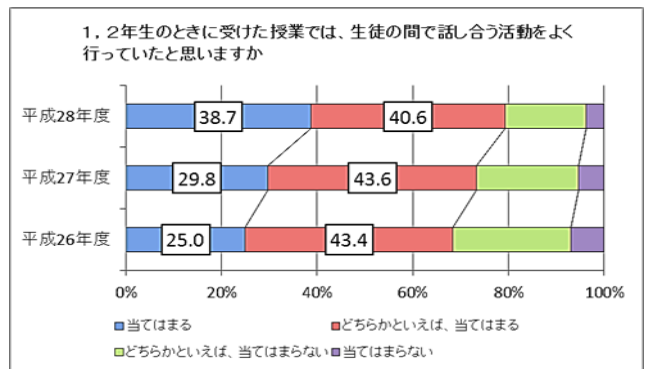
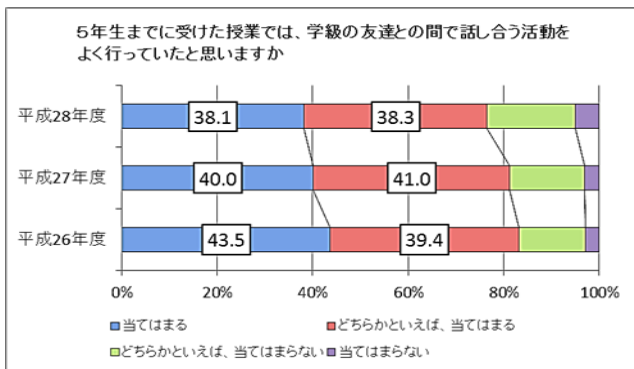
【中学校】



家庭での生活習慣は学力と相関関係があるとされている。特に、朝食や携帯電話・スマートフォンの使用時間については、学力との相関関係が強い結果となっている。中学生の携帯電話・スマートフォンの利用時間について、昨年度と比較すると、所持率は増加しているが使用時間が「1時間より少ない」と回答した割合も増加している。一定のきまりのもと使用していることが伺える。(P40 家庭)

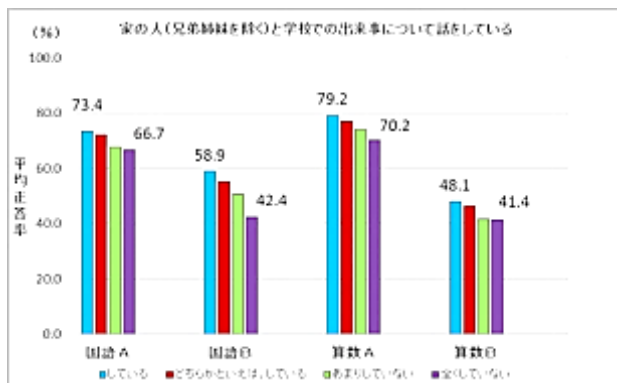
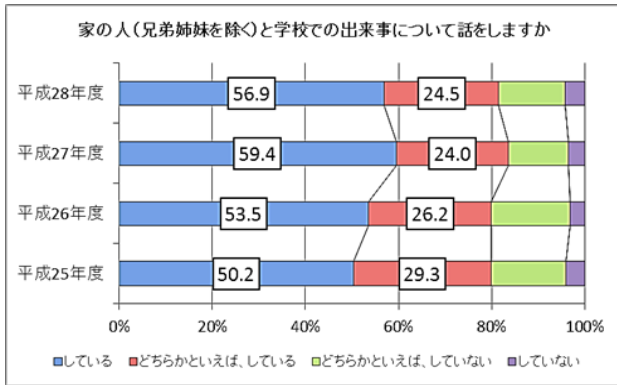


「何を学ぶのか」「何を理解したのか」を意識することが大切である。そのためには、「目標にそって見通しを立て、結果を振り返る」活動が必要であり、こうした学習活動の積み重ねが学習内容の確実な定着や思考力・判断力・表現力等の育成につながる。「授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていた」と肯定的に回答した割合は、小学校83.2%(前年度比+1.1ポイント)、中学校79.8%(前年度比+19.8ポイント)と上昇しており、授業の最初に見通しがもてる児童生徒が増えている。授業の最後に学習内容を振り返る活動については、引き続き継続した取り組みが必要である。(P40 学校)

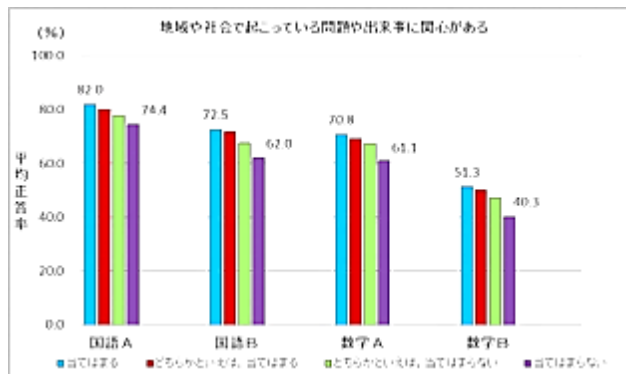
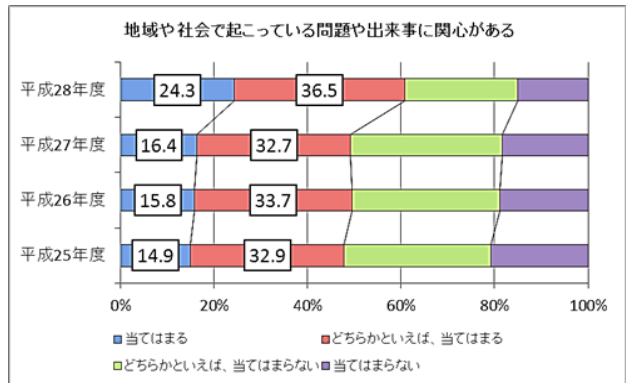
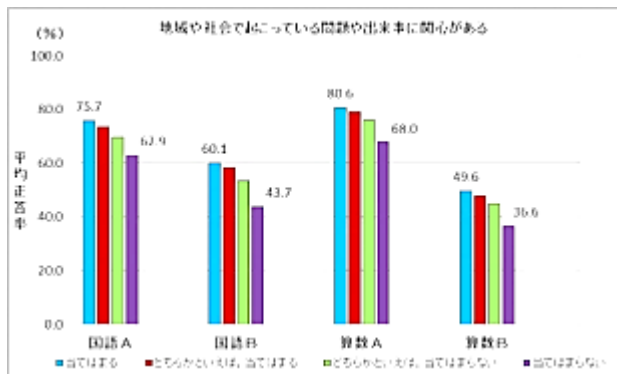
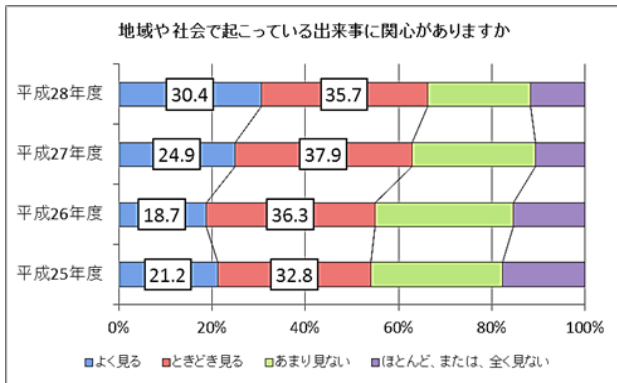
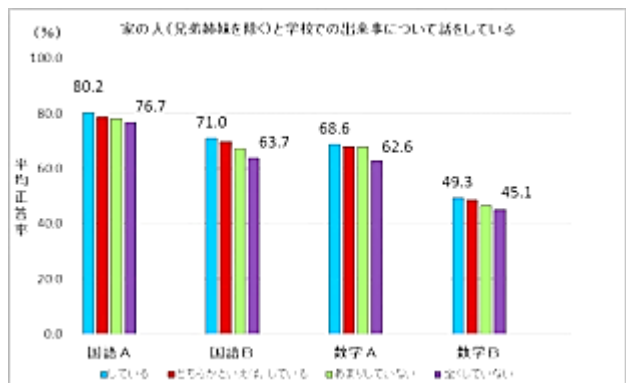
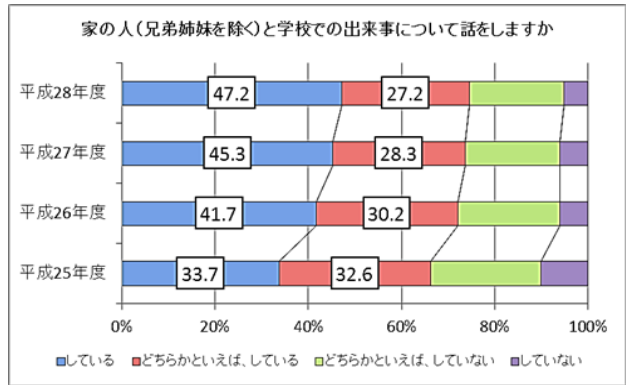


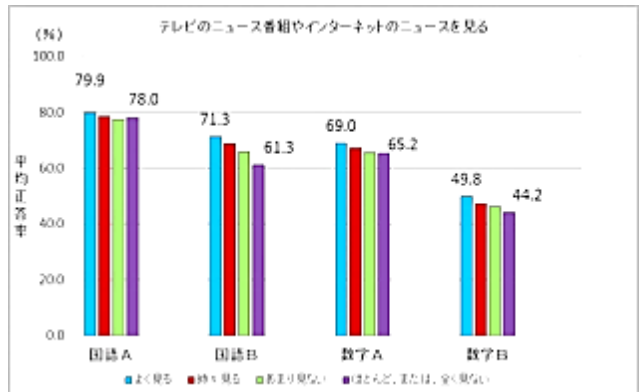
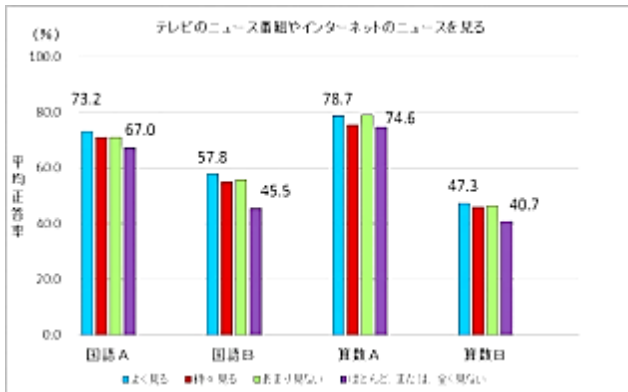
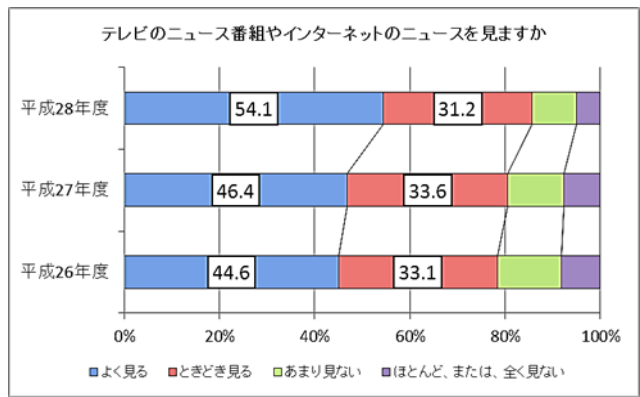
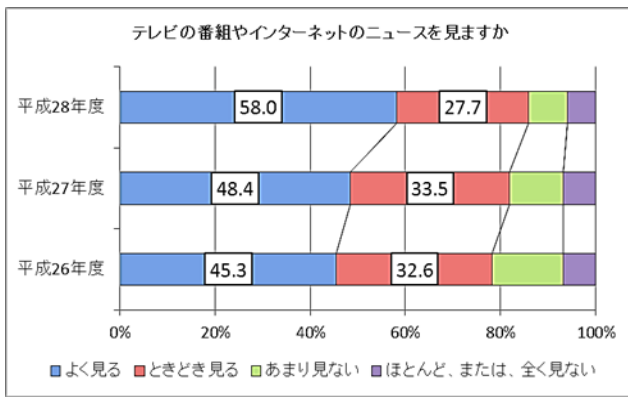
これからの時代を担う子どもたちに必要となる資質・能力として、①何事にも主体的に取り組もうとする意欲 ②多様性を尊重する態度 ③他者と協働するためのチームワークやコミュニケーションの能力が挙げられる。これらを育成していくためには、これまでの学習活動とともに、「見通しをもって取り組み、自らの学習活動を振り返り次につなげる主体的な学び」「対話的な学び」「自らの考えを広げ深める学び」が求められる。質問紙調査から、「話し合う」「発表する」活動は年々充実してきていることが伺える。自分の考えがもてる（出せる）場・設定として、たとえば「話し合う」ことの意味やよさをきちんと理解して活動していくことが大切である。（☞P39 川西市教育委員会）（☞P40 学校）

【小学校】



【中学校】





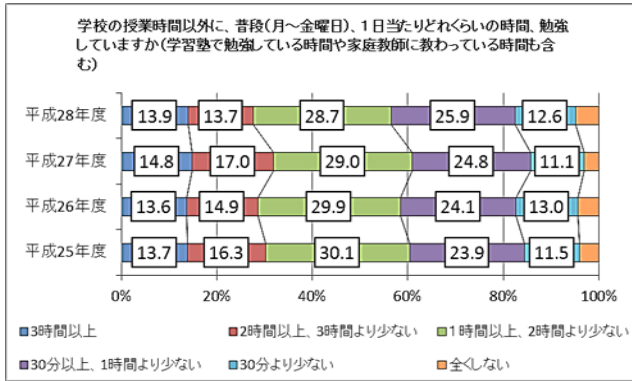
小中学校共に、「家の人（兄弟姉妹は除く）と学校での出来事について話をする」、「地域や社会で起きている出来事に興味がある」という家族や地域の繋がりと学力には、相関関係があることが伺える。川西市は、近年、家族とのつながりを肯定的に捉えている児童生徒の割合が増加傾向にある。学校ホームページや学校だより等を通して、学校の教育活動などを積極的に情報発信することは、子ども、学校、家庭を繋ぐうえで効果的であり、また、その日の出来事を家で話すということは、子どもがその日を振り返るだけでなく、話を聞いてもらうことで、家族から愛情を感じることができ、自尊感情を育むことにもつながる。

また、「テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る」と肯定的に回答している割合も、小中学校共に80%を超えている。世の中の動きや変化に関心を持ったり、社会の出来事に対して自分なりの考えを持ったりすることを習慣づけていくことを大切にしたい。

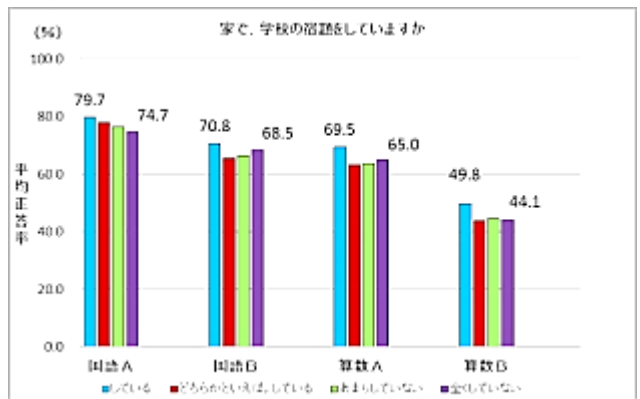
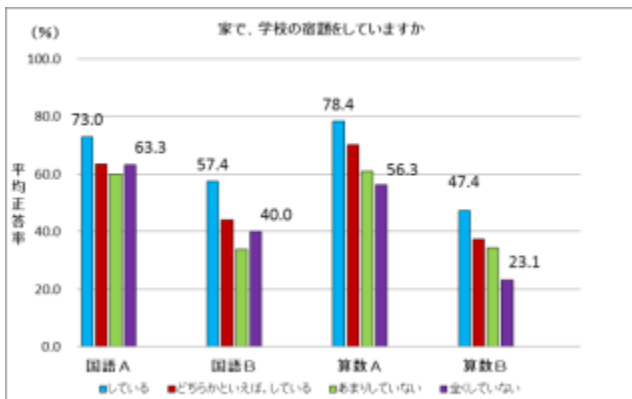
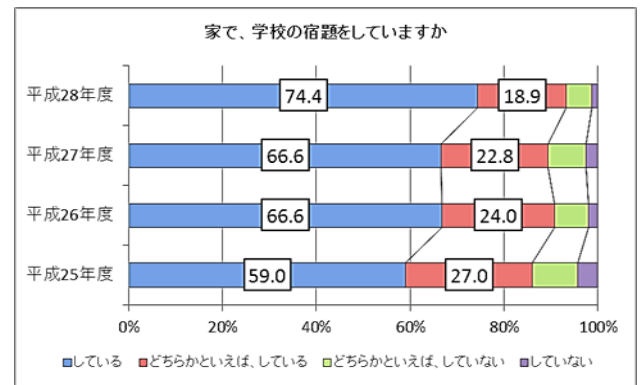
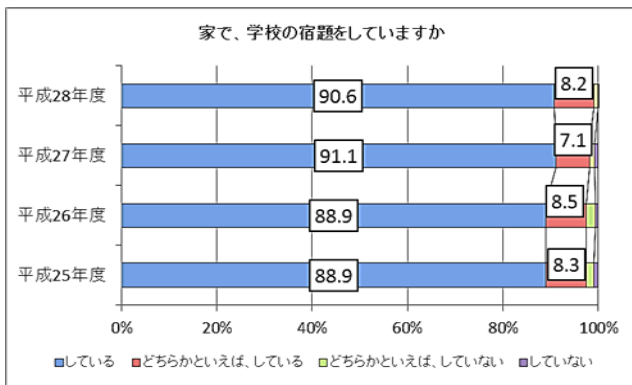
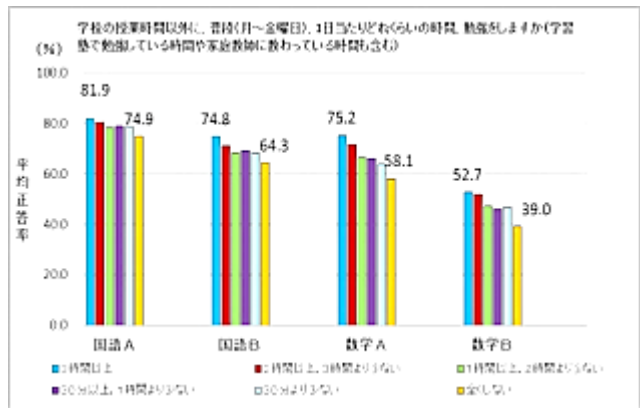
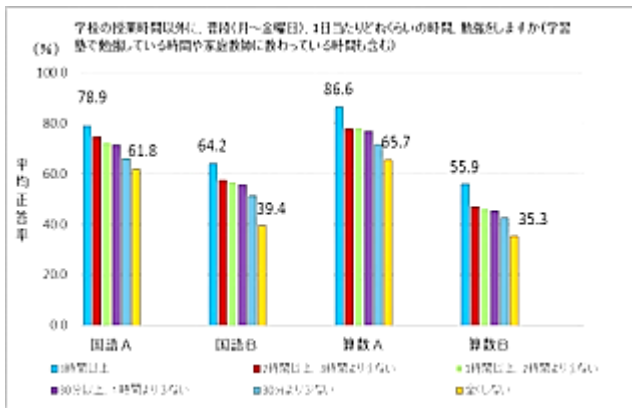
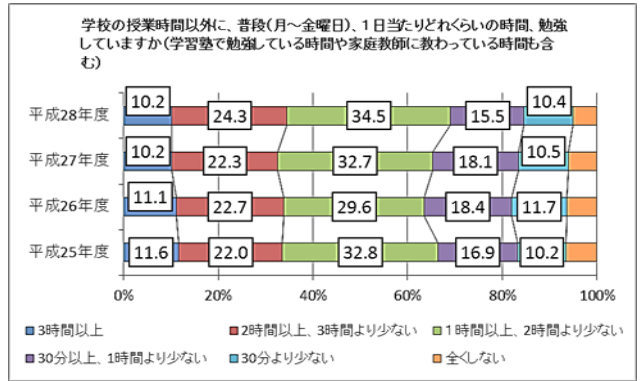
(☞ P 40 学校) (☞ P 40 家庭) (☞ P 40 地域)

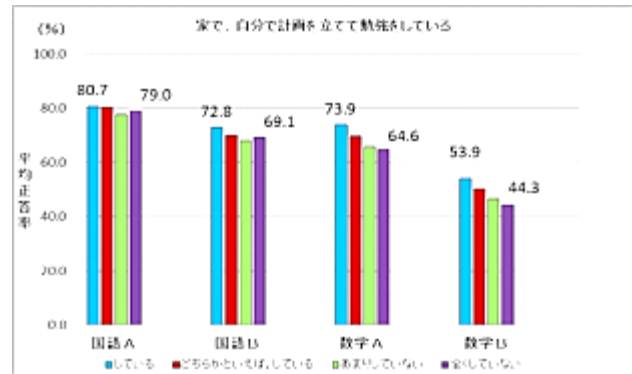
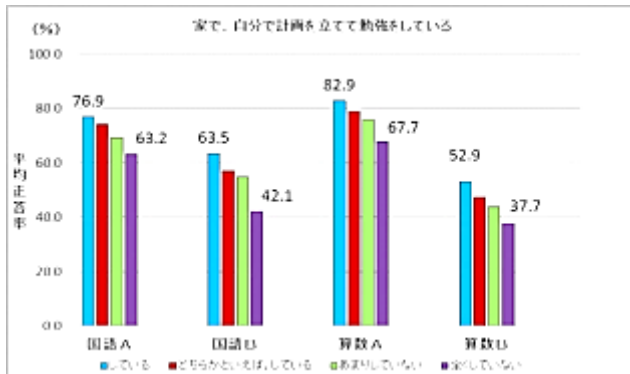
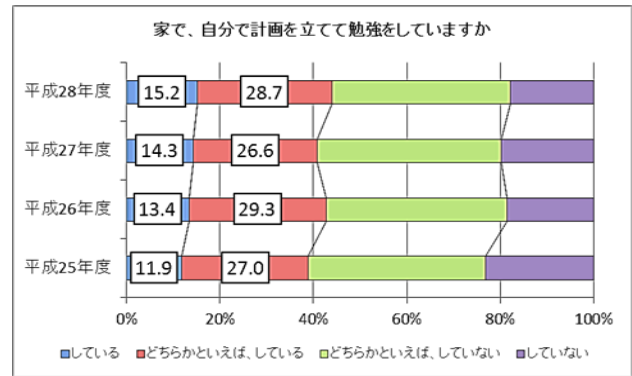
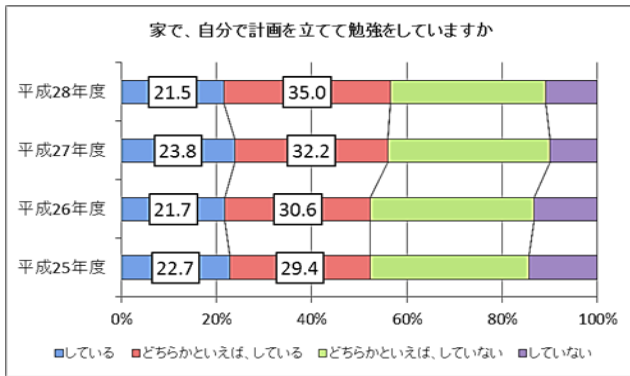
4 家庭学習の充実

【小学校】



【中学校】





「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり1時間以上勉強している」割合は、小学校56.3%（全国比-6.2ポイント）、中学校69.0%（全国比+1.1ポイント）となっている。

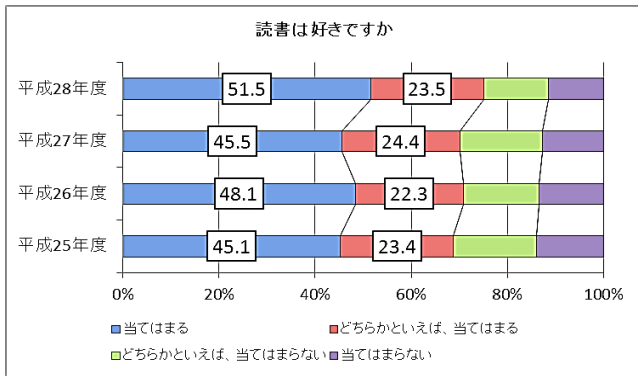
本市では、放課後学習支援事業「きんたくん学びの道場」（以下「学びの道場」とする）を推進しており、「学びの道場」を通じて、子どもたちに身に付けさせたい①家庭学習の習慣化、②基礎的・基本的な学力の定着に取り組んでいる。

家庭学習における宿題の役割は、①家庭学習の習慣化、②授業内容を振り返って身に付ける及び授業での理解を深めること、である。「学校の宿題をする」項目に対して肯定的に回答している割合は、小学校98.8%（全国比+1.8ポイント）、中学校93.3%（全国比+3.2ポイント）と小中ともに全国平均を上回っており、課題に真面目に取り組む意識は年々高いものとなっている。特に小学校算数の宿題に関しては、学習した内容の定着を図る内容となっていることが多く、宿題にきちんと取り組む習慣が、学習内容の定着に学習につながるものとする。

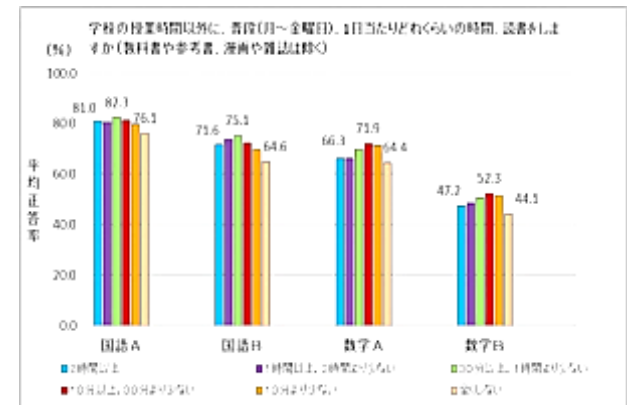
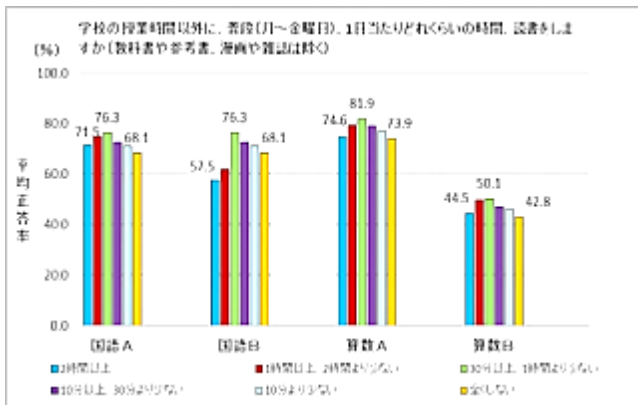
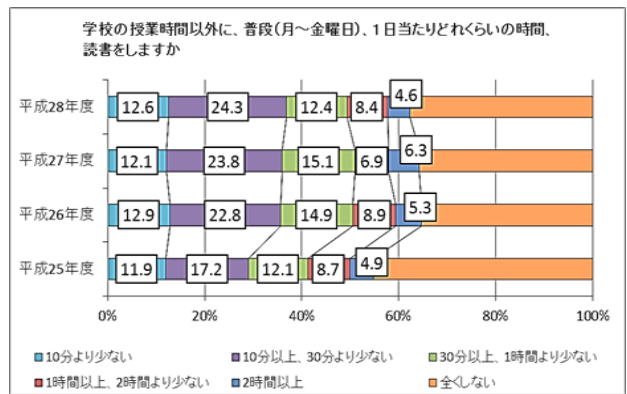
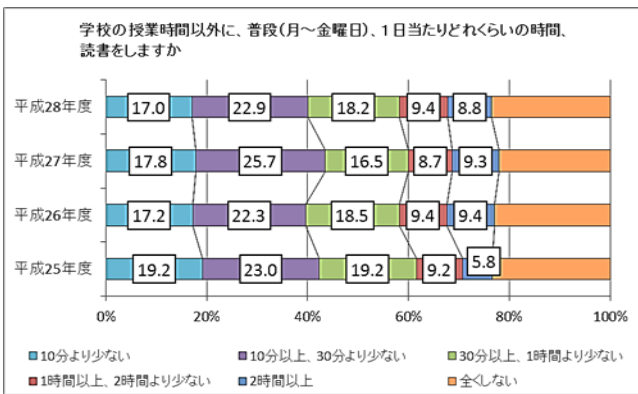
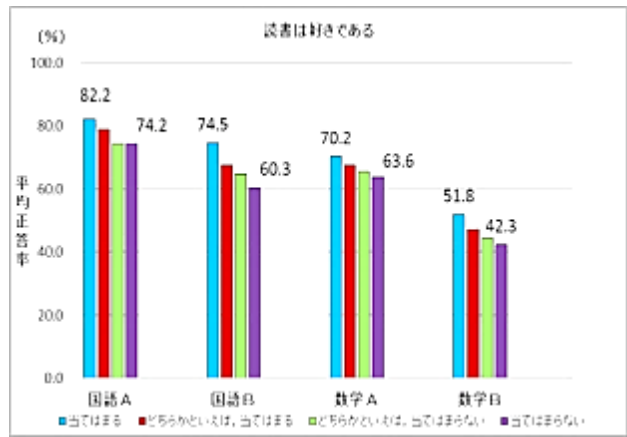
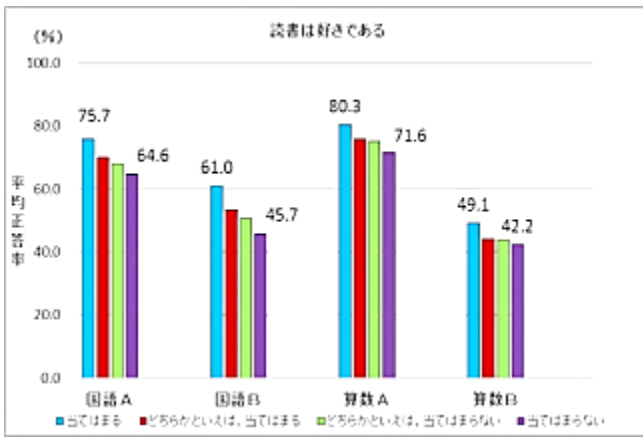
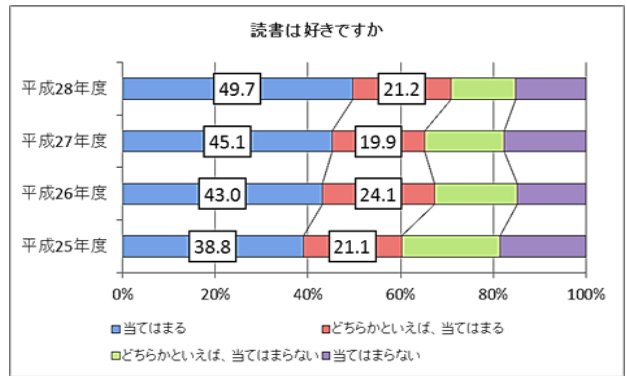
「家で、自分で計画を立てて勉強している」の肯定的な回答の割合は小学校56.5%、中学校43.9%である。家庭で学習する機会の多い小学校段階では、自分で計画を立て勉強する意味や方法を伝えることが重要である。宿題を基本に、たとえば、家庭学習で取り組める予習、復習等を授業と関連する課題にすることで取り組みやすさが増してくる。中学校段階になると「宿題に頼る家庭学習」から「自ら学ぶ学習」への転換が必要である。「自ら学ぶ姿勢」は、これからの生涯にわたる学習活動にとって重要であるため、継続した取り組みが必要である。

（☛ P 39 川西市教育委員会）（☛ P 40 学校）（☛ P 40 家庭）

【小学校】



【中学校】



「読書が好き」と肯定的に回答した割合は、平成 25 年度小学校-3.6 ポイント、中学校-10.2 ポイントと全国平均を下回っていた差が、今年度小学校+0.4 ポイント、中学校+1.0 ポイントと小中学校共に全国値を上回っている。学校司書や図書ボランティアとの連携、学校図書館を活用する機会の充実とあわせ、学校で読書活動をする時間を確保していることは効果的である。また、小中学校とも 10 分以上 30 分未満という時間の割合が増加傾向にあり、30 分程度の読書時間は学力とも相関が伺える。

限られた読書時間の中で、読書の質を高める方法や、平日の時間を計画的に使うことで読書の時間を意欲的に生み出すなど、効果的な読書活動を継続していくことが大切である。

(☛ P 39 川西市教育委員会) (☛ P 40 学校) (☛ P 40 家庭)

5. 今後の取り組みについて

これからの子どもたちには、「社会の加速度的な変化の中でも、社会的・職業的に自立した人間として、伝統や文化に立脚し、高い志と意欲を持って、蓄積された知識を礎としながら、膨大な情報から何が重要かを主体的に判断し、自ら問いを立ててその解決を目指し、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくこと」が求められています。

そこで、学校や家庭での教育活動において、子どもたち自身が、「何を学ぶか・何ができるか」という知識・技能を自覚するだけでなく、「どのように学ぶか」について考え、判断し、表現しながら主体的に学習に取り組む態度を含めた学び方を身に付けていくことが必要となります。

本調査において国は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としています。本市においても今回の調査結果は、川西市の子どもたちのこれから必要とされる資質・能力を育むための取り組みを検証するものであり、教育における目的を見失うことなく、わたしたち大人が子どもたちのために環境を整えることが重要であると考えます。

子どもたちが将来の夢や目標を大きく持ち、それに向かって「学び」を進めていくためにも、学校・家庭・地域が一丸となって育て、支えていくことがとても大切であると考えます。

川西市教育委員会では、全国的な状況との関係及び川西市の経年変化などから、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

- * 教職員の資質と実践的指導力の向上に向けた教職員研修の充実
- * 基礎的な生活習慣や学習習慣の定着に向けて、家庭や地域との連携を深めるとともに、安心、安全な学校環境づくり、問題行動への迅速かつ的確な対応としての児童・生徒指導の更なる充実
- * 中1ギャップの解消、居場所づくり、学びの連続性に基づく学力向上に向けて、就学前小中連携教育の充実
 - ◇ 地域性を踏まえた教育目標の設定
 - ◇ こども理解の推進
 - ◇ 学習指導の継続性に関する研究
 - ◇ 学習内容の系統性に関する研究
- * 新学習システムによる個に応じたきめ細かい学習指導の充実
- * 外国語の指導の充実に向けて、小学校への外国語指導支援員及び外国語指導助手の配置、中学校への外国語指導助手の配置
- * 言語活動の礎となる読書活動の充実及び「学校司書」との連携、学校図書館ボランティアの活動等の支援
- * 学校における ICT（情報通信技術）の活用及び整備
- * 家庭学習の習慣化に向けて、「きんたくん学びの道場」の充実
- * 子どもたちの自立支援の推進に向けて、川西市独自の体験活動事業の「里山体験学習」や「先輩に学ぼう！」の実施

などの方策を推進し、「川西の教育」に示す「めざす人間像」、「5つの基本方針」を実現すべく取り組みます。

学校では、調査結果を踏まえて、「学力向上総合プラン」を策定します。

- * 「めあて」「見通し」「振り返り」を明確にし、主体的な学びにつなげる「わかる授業」づくりの充実

- * 安心で安全な環境に向けた「学習規律」の確立

- * 基礎・基本の定着に向けた「学習タイム」の充実

- * 教職員の指導力向上に向けた「校内研究」の充実

- * 学校での学習と家庭学習をつなげる「自主学習」支援

- * 子どもの豊かな心を育むための「言語活動」、「道德教育」、「体験活動」の充実

などの方策を位置付け、全職員一丸となって、児童生徒への教育指導の改善に取り組みます。

家庭におきましては、子どもたちの豊かな情操を育む基礎的な資質や能力の育成を期待します。

- * 子どもたちの健やかな育ちに向けた基本的な生活習慣の確立

- * 「家庭学習ハンドブック」等を活用し、自ら学び、考える力を育む家庭学習習慣の定着

- * 言語活動、豊かな人間関係の礎となる家庭での読書活動など、家族で一緒に取り組むことのできる活動の促進

など、子どもたちとともに取り組んでいただきますようお願いします。できたことをほめて、子どもたちのやる気を高め、主体的な行動を促すことは、自立した人間に育つためにも重要な要素です。

地域におきましては、社会全体で子どもたちを育てる環境づくりを期待します。

- * 地域の人材や自然・文化などを活用した「総合的な学習の時間」や「体験学習」の充実

- * 学校施設等を活用した「放課後こども教室」等、地域全体で子どもたちの学びを支える環境の整備

- * 子どもたちの自立支援の推進に向けた「仕事」のやりがいや楽しさを伝える「トライやる・ウィーク」などを核としたキャリア教育の展開

- * 「ふるさと川西」への帰着意識向上に向けた伝統的な行事の「地域的な行事」への参加・協力

など、学校教育の中だけでは実現することができない側面の支援をご協力いただきたいと思います。

ご理解・ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。